



農業農村整備

# かごしま

VOL. 334  
平成28年6月発行



トピックス

鹿児島県内の農業農村整備事業における環境配慮事例を作成



水  
土  
里  
ネ  
ット

水土里ネット鹿児島

<http://www.midorinet-kagoshima.jp/>



# INDEX

## ●トピックス

- 鹿児島県内の農業農村整備事業における環境配慮事例を作成…………… 1

## ●本会の活動

- 平成27年度 第3回・第4回理事会を開催…………… 6
- 第58回通常総会を開催…………… 7
- 平成27年度 水土里ネット役員研修会を開催…………… 10
- 平成27年度 第2回地域土改連絡協議会及び  
土地改良区地域連絡会議を県内各地域で開催…………… 11
- 全国土地改良功労者表彰及び農業農村整備優良地区コンクール表彰伝達式を開催…………… 12

## ●政策情報

- 平成28年度 農業農村整備事業関係予算の概要…………… 14

## ●土地改良区情報

- 水土里ネットの更新情報(設立・解散、理事長の変更等)…………… 17
- 熊本地震義援金協力のお礼…………… 17
- 水土里ネット曾於北部 観光ツアー客に谷川内ダムや水土里ネットを紹介…………… 18
- きらり★水土里女子…………… 19

## ●ニュース・アラカルト

- 棚田等保全ネットワーク研修会を開催…………… 20
- 棚田と水土里サークル活動パネル展inイオンモール鹿児島を開催…………… 22
- 平成27年度 土地改良換地土部会及び換地業務検討会を開催…………… 23
- 平成27年度 農地利用集積推進対策会議を開催…………… 23
- 水土里情報システム(MK-Maps) 運用研修会を開催…………… 24
- 標準積算システム運用研修会を開催…………… 24
- 県農業集落排水事業連絡協議会 第26回通常総会を開催…………… 25
- 地球人会議かごしま 平成28年度 運営委員会を開催…………… 25
- 平成27年度 第2回農村環境保全専門委員会を開催…………… 26
- 種子・屋久の新しい農業農村整備を進める会がカレンダーを作成…………… 26
- 疏水のある風景写真コンテスト2015 本県から1名が優秀賞、2名が入選…………… 27
- 第17回ため池のある風景写真コンテスト 本県から2名が特別賞を受賞…………… 28

## ●各管内だより

- 北薩事務所…………… 29
- 大隅事務所…………… 30
- 大島事務所…………… 31

## ●お知らせ

- 新規採用職員5名が入会…………… 32
- 水土里ネット鹿児島 平成28年度版PRパンフレットを作成…………… 32
- 第39回全国土地改良大会(石川大会)の開催について…………… 33
- 第25回かごしまフォト農美展 作品募集…………… 34
- 「ふるさとのお田んぼと水」子ども絵画展2016 作品募集…………… 34
- 「三段組版 土地改良法令集 平成28年版」の発行について…………… 35
- 鹿児島県水土里サークル活動シンポジウムの開催について…………… 35
- 九州「農地・水・環境保全」フォーラムin福岡の開催について…………… 35
- 平成28年度 農業農村整備優良地区コンクール 参加地区を募集…………… 36
- 鹿児島県農業水利施設小水力等発電推進協議会が行う会議・研修会について…………… 36



表紙写真

第24回かごしまフォト農美展 課題入選  
佐土原 敏明 「水車水守」  
撮影場所:霧島市

## ●会議・研修会情報

- …………… 37

## ●編集後記

- …………… 37

## 鹿児島県内の農業農村整備事業における環境配慮事例を作成

平成13年度の土地改良法の改正により「環境との調和への配慮」が明記され、生態系や景観などの自然環境に配慮した事業実施が義務づけられた。本会では、平成18年度に鹿児島県内の農業農村整備事業に関する環境保全の課題、整備方針等について検討することを目的とした、農村環境保全専門委員会を設立した。

土地改良法の改正から10数年が経過し、県内の農業農村整備事業においてもあらゆる環境配慮対策が講じられている。同委員会では、今回、農業農村整備事業の主要工種である、ほ場整備、用排水路施設整備、河川工作物整備（頭首工）、農道整備、ため池整備における代表的な環境配慮事例の紹介と整備後の管理や地域住民との関わりについてとりまとめた「かごしま農業農村整備 環境配慮事例」を作成した。

本稿では、ほ場整備における用水路整備、ピオトープ池整備について紹介する。また、整備後の維持管理、モニタリングの在り方について、概要を掲載する。

### 1.水生生物の生育・生息環境に配慮した用水路整備

|      |                  |
|------|------------------|
| 事業名  | 農村振興総合整備事業       |
| 地区名  | 大崎地区(岡別府団地)      |
| 事業主体 | 鹿児島県大隅地域振興局農村整備課 |
| 実施場所 | 鹿児島県曾於郡大崎町岡別府    |
| 事業期間 | 平成18年度～平成28年度    |

本地区は、樹林沿いに立山池、高久田之池、五反田之池の3つの池があり、水生生物の繁殖地として昔から地域住民により保全されており、コンクリート三面張や土構造の排水路、流末となる河川など多様な水環境が存在するため、動植物の生育・生息環境への配慮対策を実施した。



【ツリフネソウ】



【右岸用水路】

環境配慮の保全対象とした種は、植物ではツリフネソウ、ミソハギ、両生類ではアカハライモリ、トノサマガエル、昆虫類では、コガタノゲンゴロウ、ゲンジボタル、魚介類ではドジョウ、ナマズ等を選定して配慮工法を検討している。



【コガタノゲンゴロウ】



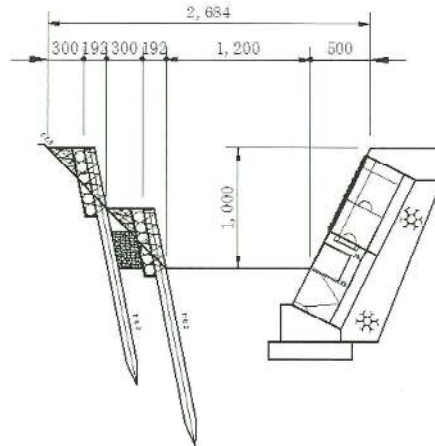


## <工法概要>

- ①用水路は魚巢ブロックと竹ソダの複合水路を採用し、魚類や植物などの生息環境を整備
- ②用水路と湧水池との接続区間は、水路幅に変化を設け整備
- ③水田に用水を取り入れるため、ゲートを整備する必要があり、ゲート上下流に落差が生じるため、魚道を整備し移動経路を確保



【魚巢ブロック】



【標準断面図】

農村環境保全専門委員会の委員と現地確認を行い、「ネットワーク（移動経路）について、イモリやアカガエル類の繁殖地として良好な環境である。水田とのネットワークも確保出来ており、在来の生物種にとって良い環境である。多様な流水環境や水深の変化もあるので良い」と配慮した効果が確認された。

また、確認時点では右岸用水路にボタンウキクサ（※1特定外来生物）が繁茂していたが、水土里サークル活動組織を中心に除去に取り組み、利活用と併せ、管理についても継続していくことが求められる。



【専門委員による確認状況】



【ボタンウキクサの除去作業】

※1特定外来生物：特定外来生物とは、外来生物（海外起源の外来種）で、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から指定されている。平成17年に施行された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、飼養、栽培、保管、運搬、輸入等について規制を行うことが定められている。

参考：環境省自然環境局ホームページ(<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>)

## 2.湿地環境に配慮したビオトープ池整備

|      |                     |
|------|---------------------|
| 事業名  | 農村振興総合整備事業          |
| 地区名  | 加治木地区               |
| 事業主体 | 鹿児島県始良・伊佐地域振興局農村整備課 |
| 実施場所 | 鹿児島県始良市加治木町木田       |
| 事業期間 | 平成19年度～平成29年度       |

本地区では、環境調査において確認された希少生物（コオイムシ、アカハライモリ）が、生息するために必要な湿地環境の創出及び、カエル類が容易に移動できる土水路等の確保に配慮している。



【施工前】



【コオイムシ】



【アカハライモリ】



【施工後】



【ワークショップ（構想策定）】

ほ場整備前の湿地（休耕田）環境には、保全対象生物や水生昆虫が多く生息していたことから、生物の生息環境に配慮したビオトープ池を整備することを検討。地元の小学校と生きもの調査を実施し、換地委員との勉強会、希少種（コオイムシ）の引越しを行い、ビオトープ池の維持管理や利活用について地元と合意形成を図り、直営施工で実施した。

平成22年3月の完成後も、環境学習のフィールドとして、加治木小学校が毎年継続的に、生きもの学習会を実施している。その中で保全対象種としているコオイムシやアカハライモリも確認されており、ビオトープ池としての機能を十分に発揮している。



【生きもの学習会】

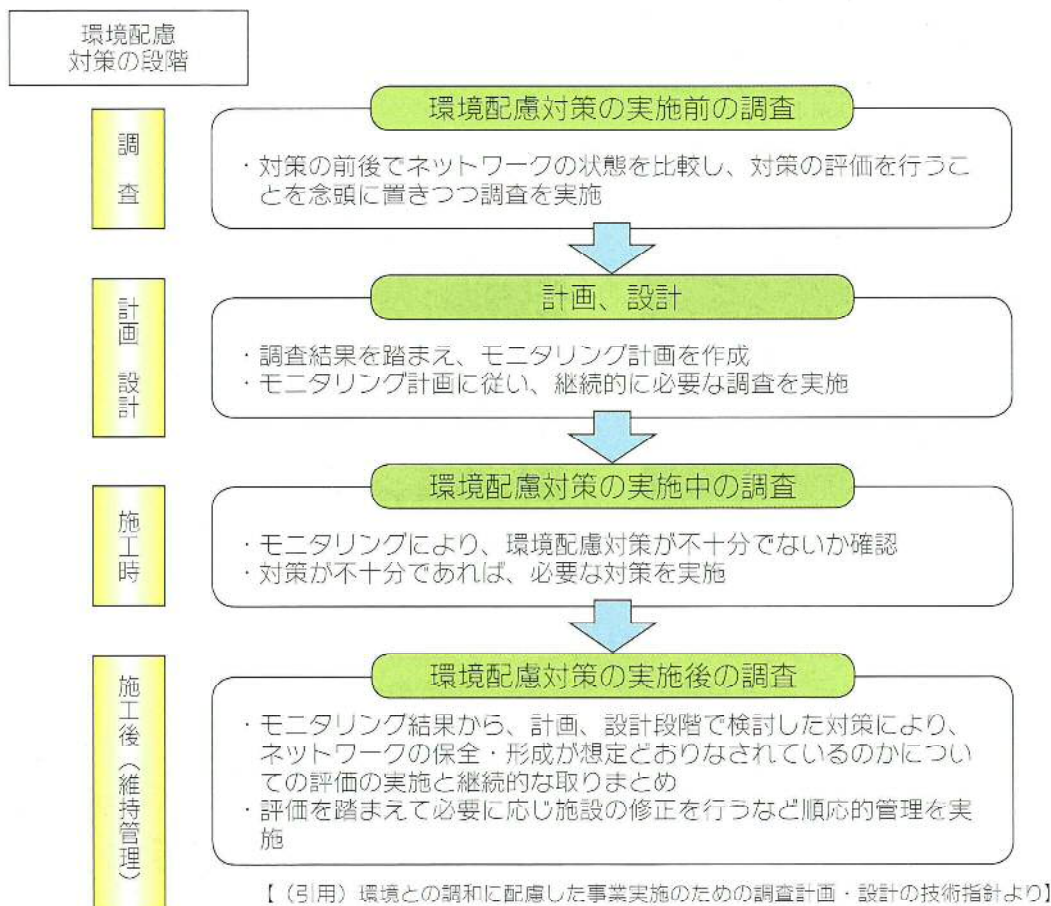
今後の利活用や維持管理について、ピオトープ池周辺の植生も繁茂している状況であるが、生息環境を保全するために過度な伐採を避け、ローテーションごとに伐採し、部分的に植生を残す必要がある。池内の管理として、腐植した植物や、用水と同時に流入する土砂により陸化が進むことから、定期的な土砂排除が必要である。

現在の利活用は、近隣小学校の環境学習会のみとなっている。地域住民の参加により整備されたことや、地域の環境資源であることから、非農家も巻き込んだ積極的な活用により、地域環境保全への取り組みや、環境保全意識の醸成に繋がるような体制構築が必要と考えられる。

### 3.維持管理・モニタリングについて～環境配慮のその後～

環境との調和に配慮した施設の維持管理の留意点として、環境配慮対策を行った施設等が、生物の「生息・生育環境及び移動経路」(ネットワーク)における機能を十分に発揮するためには、施設の適正な維持管理が重要であるとともに、モニタリングを実施しながら維持管理を行っていくことが望ましい。

総合的な環境配慮の事業実施を行うには、事業主体は、調査・計画段階から、農家や土地改良区、地域住民、関係団体など維持管理を実施する主体と十分な合意形成を図ることが重要である。



【図 モニタリングの進め方】

#### 4.おわりに

今回、2事例について環境配慮対策の内容と現状及び今後の課題等について紹介をしたが、総合的な環境配慮への取り組みを行うためには、環境配慮対策実施後の対応が重要となってくる。維持管理やモニタリングの手法等についても「かごしま農業農村整備 環境配慮事例」に整理しているので、事業実施の際に参考にさせていただきたい。

本県では、水土里サークル活動組織の多くが農地周辺の維持管理活動、共同活動に取り組んでいる。また、一部の組織では、環境への配慮について勉強会を開催するなど、多様な取り組みを行っている。環境配慮については調査・計画段階、設計・施工、維持管理といった流れの中で地域の合意形成が不可欠であり、受益農家はもちろんのこと、地域農業と密着している水土里サークル活動組織は環境配慮の取り組みの担い手としても期待される。

本会では、今後も、環境との調和に配慮した事業実施に向けて、調査・計画段階から、設計・施工、施工後のモニタリング調査等、総合的な環境配慮に関わる取り組みをトータルサポートできるように努めていきたい。

最後に、本事例をとりまとめるにあたり、情報提供をいただいた県及び市町村関係者の皆さまに深く感謝するとともに、厚くお礼申し上げます。

(※なお、本誌で紹介した「かごしま農業農村整備 環境配慮事例」については、本会ホームページに掲載を予定しています。ぜひ、ご覧ください。)

---

#### 【参考】

文章の中で掲載した生物種のうち、国、県において希少生物とされている種

<植物>

- ・ツリフネソウ(鹿児島県レッドデータブック:準絶滅危惧種)

<両生類>

- ・アカハライモリ(環境省レッドリスト・鹿児島県レッドデータブック:準絶滅危惧種)
- ・トノサマガエル(環境省レッドリスト・鹿児島県レッドデータブック:準絶滅危惧種)

<昆虫類>

- ・コガタノゲンゴロウ(環境省レッドリスト:絶滅危惧II類)

鹿児島県レッドデータブックでは、2016年改訂により準絶滅危惧の対象から外れている。

- ・コオイムシ(環境省レッドリスト:準絶滅危惧、鹿児島県レッドデータブック:絶滅危惧II類)

<魚介類>

- ・ドジョウ(鹿児島県レッドデータブック:準絶滅危惧種)



## 本会の活動

### 平成27年度 第3回・第4回理事会を開催



第3回理事会

2月9日、平成27年度第3回理事会が開催された。

会議に先立ち、永吉弘行会長が「昨年末にTPP交渉が大筋合意となり、今後県内農業に対する大きな影響も危惧されるところだが、政策大綱の決定も含めて27年度補正予算と平成28年度当初予算概算も決定され、農業農村整備関連予算総額1,222億円の増額という結果になった。

当初予算の満額確保という要求は実現しなかつたが、森山農林水産大臣をはじめ、農業農村整備の推進にご理解をいただいている多くの国会議員の皆さまのご配慮のもと、今後につながる結果として評価できる内容だ。

本会としても会員・地域の情勢を的確に把握しながら、さまざまな支援事業に積極的に取り組んでまいりたいと考えているので、引き続き皆さま方のご支援をお願いしたい」と挨拶を述べた。

その後、議案審議に入り、提出議案はすべて原案どおり可決承認された。提出議案は以下のとおり。

#### □議案

- 第1号議案 第58回通常総会の開催について
- 第2号議案 平成27年度一般会計収支補正予算の決定について
- 第3号議案 平成28年度事業計画の決定に

ついて

- 第4号議案 平成28年度会費等の賦課基準並びに徴収方法の決定について
- 第5号議案 平成28年度役員報酬の決定について
- 第6号議案 平成28年度一般会計・特別会計収支予算の決定について
- 第7号議案 平成28年度一時借入金の最高限度並びに借入方法及び余裕金預入先の決定について
- 第8号議案 役員の変更について
- 第9号議案 第58回通常総会表彰者について
- 第10号議案 決議について

#### □報告事項

- 通常総会提出議案支部説明会（地域土改連連絡協議会）の開催

また、3月23日、平成27年度第4回理事会が第58回通常総会の終了後に開催された。会議に先立ち、永吉会長が、ご協力により通常総会を無事に終了できたことと本会の組織運営への支援に対するお礼を述べた。

その後、平成28年度の参与の委嘱について審議され、原案どおり可決承認された。

平成28年度の参与には、堀洋一郎・県農業土木技監をはじめ、東郷清次・県農地整備課長、新馬場浩・県農地保全課長、引地正行・県農村振興課長が新たに選任された。



第4回理事会



## 第58回通常総会を開催



永吉会長の挨拶

本会の第58回通常総会が、3月23日、県土地改良会館で開催され、会員164名（うち委任状65名）が出席した。

総会では、永吉弘行会長が「昨年は、農業農村を取り巻く状況に、新たな動きを実感する年であった。「新たな食料・農業・農村基本計画」が策定され、「骨太方針」や「日本再興戦略改訂2015」に、初めて「土地改良事業の一層の推進」が明記された。また、TPP交渉の大筋合意がなされ、今後の県内農業に対する影響が懸念されるなか、「政策大綱」を踏まえた平成27年度補正予算、平成28年度当初予算も決定し、農業農村整備事業予算総額は1,222億円の増額となった。併せて、自民党の二階俊博・総務会長が全国水土里ネットの会長に、また本県選出の森山裕・衆議院議員が農林水産大臣に就任され、さらには、来る7月の参議院議員選挙に土地改良代表候補の擁立が、9年ぶりに決まった。

これらの情勢の変化は、国民に安定的に食料を供給するための「足腰の強い農業」の確立、また農業を守るためには基盤をしっかりと整備することの重要性が再認識された結果ではないかと思う。本会の基本理念は、会員の皆さま方の利益増進につながる事業活動を積極的に展開することであり、平成28年度も国・県の指導のもと、関係機関と連携を図りながら、各種事業を一層強力に推進してまいりたい」と挨拶した。

次に表彰が行われ、多年にわたり土地改良事業の推進と発展に大きな功績のあった、諏訪田達夫・鹿児島市郡山土地改良区理事長と、日高光浩・笠野原土地改良区事務局長が県知事表彰を受けたほか、42名が土地改良功労者表彰などを受賞した。



県知事表彰を受ける諏訪田理事長



県知事表彰を受ける日高事務局長

また、伊藤祐一郎・県知事、池畑憲一・県議会議長、井上明・九州農政局長（代読・山内勝彦地方参事官）が来賓祝辞を述べられた。

その後議事に入り、議長に選任された児玉任光・長島町川床土地改良区理事長による議事進行のもと、提案された8議案をすべて可決承認した。

最後に、鹿児島の農業・農村の持続的な発展を目指し、関係者が総力を結集し、農業農村整備事業を強力に推進していこうと決議案が朗読され、満場の拍手で採択された。



# 本会の活動

## ◎提出議案

- 《第1号議案》 平成26年度事業報告並びに一般会計・特別会計収支決算及び財産目録について
- 《第2号議案》 平成27年度一般会計・特別会計収支補正予算の決定について
- 《第3号議案》 平成28年度事業計画の決定について
- 《第4号議案》 平成28年度会費等の賦課基準並びに徴収方法の決定について
- 《第5号議案》 平成28年度役員報酬の決定について
- 《第6号議案》 平成28年度一般会計・特別会計収支予算の決定について

- 《第7号議案》 平成28年度一時借入金の最高限度並びに借入方法及び余裕金預入先の決定について
- 《第8号議案》 役員の改選について



本会職員による決議案の朗読

県

## 決議

農業・農村は国民に食料を安定的に供給するとともに、国土の保全、水源のかん養、良好な景観の形成、地域文化の伝承など、多面的機能の発揮を通じて、地域社会に貢献しその役割は益々重要になってきている。

しかしながら、農業・農村を取り巻く状況は、過疎化、高齢化、担い手不足の進行等に加え、地域活力の低下などの課題が山積している。また、野生鳥獣による被害の拡大や食料生産を支える土地改良施設の老朽化の進行は、食料自給率の向上に支障をきたすばかりでなく、豪雨時の災害の発生及び拡大を招くことが懸念されている。

このため、国においては「農林水産業・地域の活力創造プラン」等で示された施策の方向やこれまでの施策の評価も踏まえつつ、新たな食料・農業・農村基本計画を策定し食料・農業・農村施策の改革を進め、若者たちが希望を持てる「強い農業」と「美しい活がある農村」の創出を目指している。

また、県においては「かごしま食と農の県民条例」に基づく基本方針「が見直され、同プランに基づく国の施策を積極的に活用しつつ、我が国の食料供給基地として国民への食料の安定供給に不可欠な役割を継続的に果たすことが重要としている。

以上を踏まえ、水土里ネットワーク鹿児島は、鹿児島県の農業・農村の持続的な発展を目指して、農業農村整備事業を強力に推進するため、水土里ネットワーク関係者の総力を結集し、左記事項の実現を、第五十八回通常総会の名において決議する。

### 記

- 一 担い手への農地集積の加速化に向けた農地の大区画化・汎用化の整備促進
- 一 食料供給基盤の強化を図るため畑地かんがい施設整備の積極的な推進
- 一 老朽化した農業水利施設等の保全整備や耐震化等の防災・減災対策の推進
- 一 中山間地域の有する多面的機能の維持・増進のための総合整備の推進
- 一 地域資源の良好な保全管理に向けた水土里ネットワーク活動の積極的推進
- 一 土地改良区の運営基盤強化と管理体制の機能充実に向けた支援強化

右決議する。

平成二十八年三月二三日

水土里ネットワーク鹿児島（鹿児島県土地改良事業団体連合会）

第五十八回通常総会

## 第58回通常総会表彰者名簿

### [ 鹿児島県知事表彰 ] (2名)

| 氏名    | 所属名         | 役職名  |
|-------|-------------|------|
| 諏訪田達夫 | 鹿児島市郡山土地改良区 | 理事長  |
| 日高 光浩 | 笠野原土地改良区    | 事務局長 |

### [ 県土改連会長表彰 ]

#### 1 土地改良功労者表彰

##### (1) 個人功労表彰 (10名)

| 氏名    | 所属名              | 役職名  |
|-------|------------------|------|
| 吉村 善市 | 鹿児島市松元土地改良区      | 監事   |
| 今掛 和弘 | 南さつま市産業おこし部農地整備課 | 課長   |
| 川崎 千秋 | 霧島市農林水産部耕地課      | 主任   |
| 戸高 一朗 | 霧島市横川総合支所産業建設課   | 主任   |
| 前田 武志 | 伊佐市大口土地改良区       | 事務局長 |
| 梶井 正良 | 肝付町高山土地改良区       | 理事長  |
| 迫田 滝人 | 垂水市土地改良区         | 理事長  |
| 福永 利雄 | 持留川土地改良区         | 理事長  |
| 南脇敬一郎 | 末吉町高松土地改良区       | 理事長  |
| 福崎 浩二 | 両根占土地改良区         | 事務局長 |

##### 2 永年勤続役職員表彰 (7名)

| 氏名    | 所属名           | 役職名  |
|-------|---------------|------|
| 満尾 修一 | 日置市産業建設部農地整備課 | 係長   |
| 下屋 悟  | 大浦潟干拓第二土地改良区  | 監事   |
| 立山 和幸 | 霧島市農林水産部耕地課   | 主査   |
| 加覧 悟  | 吾平町土地改良区      | 理事   |
| 橋口 康則 | 曾於東部土地改良区     | 理事   |
| 菊谷 修一 | 串良町土地改良区      | 事務局員 |
| 森 優   | 土改連沖永良部支部     | 業務課長 |

### 3 感謝状 (25名)

| 氏名    | 所属名                   | 役職名     |
|-------|-----------------------|---------|
| 又木 雄二 | 農政部                   | 農業土木技監  |
| 小川 和久 | 農政部農地保全課              | 課長      |
| 土元 徹也 | 農政部工事監査               | 工事監査監   |
| 田中 啓二 | 南薩地域振興局農村整備課          | 技術主任係長  |
| 津江 忠純 | 北薩地域振興局農村整備課          | 技術専門員   |
| 徳丸 治久 | 曾於畑地かんがい農業推進センター水利事業課 | 課長      |
| 倉津 悟  | 曾於畑地かんがい農業推進センター水利事業課 | 技術補佐係長  |
| 池之上隆史 | 大島支庁永良部事務所農村整備課       | 技術補佐係長  |
| 今林 靖男 | 南薩土地改良区               | 参事      |
| 浦崎 清貴 | 出水平野土地改良区             | 主査      |
| 永山 誠  | 伊佐市農政課                | 課長      |
| 岩穴口弘行 | 始良市建設部                | 部長      |
| 有村 正美 | 始良市水道事業部              | 部長      |
| 高田 孝志 | 霧島市福山総合支所産業建設課        | 課長      |
| 弓削 正文 | 曾於市財部支所建設水道課          | 課長補佐    |
| 松尾 安次 | 曾於市大隅支所               | 支所長     |
| 中 秀喜  | 奄美市名瀬総合支所建築住宅課        | 課長      |
| 肥後 充浩 | 宇検村産業振興課              | 課長      |
| 美沢 勝秀 | 喜界町農業振興課              | 主幹兼換地係長 |
| 里内 吉司 | 徳之島町農林水産課             | 参事      |
| 貴島 武宗 | 天城町農地整備課              | 参事兼課長補佐 |
| 山之上秋光 | 土改連事業部農村整備課           | 保全管理専門員 |
| 坂元 英明 | 土改連事業部農村整備課           | 農地集積専門員 |
| 山田 安則 | 土改連事業部換地課             | 換地専門員   |
| 高原 一夫 | 土改連北薩事務所              | 技術専門員   |

※所属、役職名は総会時

## 新役員名簿

※着色部分は、新任役員

| 役職名  | 氏名    | 所属名                   |
|------|-------|-----------------------|
| 会長   | 永吉 弘行 | 伊佐市菱刈土地改良区理事長         |
| 副会長  | 本坊 輝雄 | 県農業農村整備推進協議会会長・南さつま市長 |
| 副会長  | 川添 健  | 県町村会会長・長島町長           |
| 専務理事 | 西野 一秀 | 学識経験者                 |
| 理事   | 川野 敏彦 | 県農政部長                 |
| 理事   | 宮路 高光 | 日置市長                  |
| 理事   | 東 孝一郎 | 南薩土地改良区理事長            |
| 理事   | 日高 政勝 | さつま町長                 |
| 理事   | 笹山 義弘 | 始良市長・十三塚原土地改良区理事長     |
| 理事   | 東 靖弘  | 大崎町長                  |
| 理事   | 永野 和行 | 肝付町長・肝属中部土地改良区理事長     |
| 理事   | 名越 修  | 南種子町長                 |
| 理事   | 朝山 毅  | 奄美市長                  |
| 代表監事 | 横山 宏志 | 吹上町土地改良区理事長           |
| 監事   | 坂口 二郎 | 金峰町土地改良区理事長           |
| 監事   | 町田 廣志 | 宮内原土地改良区理事長           |
| 監事   | 新納 啓武 | 徳之島用水土地改良区理事長         |

平成28年4月1日現在



## 平成27年度 水土里ネット役職員研修会を開催



土地改良区の課題と対応策について研修

本会では、1月26日、県内の水土里ネットの役職員を対象にした平成27年度水土里ネット役職員研修会を、かごしま県民交流センターで開催した。今回は、主に監事・会計担当理事の業務を中心としたカリキュラムを設定し、当日は、県内各地の61水土里ネットから、役職員ら188名が参加した。

はじめに、九州農政局土地改良管理課の新開課長補佐が、土地改良区の運営について、土地改良区や役員の役割、権限について説明した。また、不祥事を起こさないための運営体制づくりの重要性についても強調された。

次に、県農地整備課の増田専門員が、監査の実務について、監事が準備すべきことや監査のポイント等を説明した。そして、監事は会計だけでなく、土地改良区の運営についても監査してほしいと呼びかけた。

続いて、本会の井上管理課長が、監査簿の記入要領について具体例を示しながら説明した後、再び、増田専門員が説明に立ち、土地改良区検査の状況と指摘事項について、検査の目的や種類、権限、検査事項、実施方法のほか、指摘事項の概要を解説した。その上で「万が一、検査で指摘を受けたら速やかに改善を図り、改善結果は県に報告してほしい。そして土地改良区の健全な運営を確保するため、法令遵守、情報公開、説明責任を果たしてほしい」と話した。

最後に、全国水土里ネットの浦山参与が「土地改良区の課題と対応策」をテーマに、土地改

良区が抱える課題、複式簿記会計の導入促進、外部監査の導入促進、新規事業や平成28年度概算要求の概要、土地改良区に期待される役割等の内容を説明した。

出席者からは、「監査簿の記入要領についてとても参考になった。もうすぐ監事会があるので、会に向けて勉強したい」、「会計及び監査の研修は初めてで参考になった。土地改良区内でも各系の研修が必要だと感じた」、「土地改良区の団体としての役割、運営、また監査実務、記入要領、検査の状況指摘事項、土地改良区の課題や対応事項等を理解した」等の感想が寄せられた。また、「理事や総代を対象とした研修も行つて欲しい」、「各土地改良区が実施している未収賦課金対策と法的根拠について知りたい」、「複式簿記の研修が必要になるのでは」等、多くのご意見ご要望をいただいた。本会では研修会のさらなる充実へ向けて、今後も取り組むこととしている。



質問する水土里ネットの役員

### － 研 修 内 容 －

- 土地改良区の運営について  
(九州農政局 新聞課長補佐)
- 監査の実務について  
(県農地整備課 増田専門員)
- 監査簿の記入要領について  
(水土里ネット鹿児島 管理課)
- 土地改良区検査の状況と指摘事項について  
(県農地整備課 増田専門員)
- 土地改良区の課題と対応策  
(全国水土里ネット 浦山参与)

## 平成27年度 第2回地域土改連絡協議会及び 土地改良区地域連絡会議を県内各地域で開催



7管内で各水土里ネット等が集まった

本会では、2月中旬から3月上旬にかけて、県内各地域で、県、市町村、土地改良区及び本会職員が出席して、地域土改連絡協議会及び土地改良区地域連絡会議を開催した。

両会議は、各地域の特性を踏まえた農業農村整備事業の展開を目指して、推進課題等について研修、意見交換等を行うことにより、情報提供や会員の意向把握、課題に対する対応策の検討等を目的に開催している。

- 鹿児島地域：2月24日  
十八番館及び本会鹿児島事務所
- 南薩地域：3月2日  
総合保健福祉センター ふれあいかせだ
- 北薩地域：2月19日  
本会北薩事務所
- 始良・伊佐地域：2月23日  
かごしま空港ホテル
- 大隅地域：2月18日  
かのや大黒ホテル
- 熊毛地域：2月24日  
ホテルニュー種子島
- 大島地域：2月18日  
奄美観光ホテル

地域土改連絡協議会では、3月23日に開催した、第58回通常総会提出議案の説明及び決議案の承認並びに役員改選に伴う役員選考委員・役員候補の選任を行った。

また、土地改良区地域連絡会議では、主に下記の内容について説明や質疑が行われた。

### (土地改良区地域連絡会議)

- ・ 土地改良区決算書変換ソフトの活用
- ・ 特定個人情報保護規程について
- ・ 法人番号等の公表同意書について
- ・ 本会のホームページ及び会員専用サイト
- ・ 水土里ネット役員研修会の質疑について

会議では、国が示している土地改良区会計の複式簿記化の目標年度や、全土連が開発した「決算書変換ソフト」について説明を行った。

また、今年の1月から、税務や労働保険、社会保険の分野において、個人番号（マイナンバー）の利用が開始され、土地改良区も、役員等から個人番号の提供を受けて、各種届出に利用しなければならないことから、「土地改良区特定個人情報保護に関する規程」を定めて体制を整備するなどの対応をお願いした。

このほか、平成28年1月7日付けで土地改良企画課長から通知された「土地改良区体制強化基本計画」の作成について、県担当者が説明を行った。

土地改良区からは、個人番号の取得にかかる手順や特定個人情報保護規程の設置時期、土地改良区体制強化基本計画の記載内容や様式等について質問が出され、担当者等がそれぞれ回答した。

土地改良区に関する課題等については、今後も、土地改良区地域連絡会議や土地改良区連絡会議等を利用して意見や要望を伺い、行政、関係機関とも連携しながら、解決へ向けた取り組みを進めることとしている。



## 本会の活動

### 全国土地改良功労者表彰及び 農業農村整備優良地区コンクール表彰伝達式を開催

平成27年度全国土地改良功労者表彰及び農業農村整備優良地区コンクール表彰式が、3月25日に東京都で開催され、本県から4土地改良区、2団体及び個人2名が表彰された。

本会では、この表彰伝達式を4月15日、県土地改良会館で開催し、永吉会長が表彰状を授与・伝達し、受賞者の栄誉を讃えた。

以下、受賞された土地改良区・団体及び個人を紹介する。

#### 受賞団体及び個人の紹介

##### ◆全国土地改良功労者表彰

###### ○金章 串良町土地改良区

鹿屋市にあり、一級河川肝属川水系の串良川、甫木川等を用水源とする、受益面積約503ha、組合員数1,683名の土地改良区。

これまで、県営かんがい排水事業や県営ほ場整備事業等を実施し、ほ場整備事業地区については、すべてをパイプライン化し、受益者の労力軽減を図ってきた。

また川原園井堰は、1638年に設置以後、2度の改修を経て現在に至っているが、全国でも珍しい川を柴束により堰上げる頭首工で、毎年3月に行われる柴掛け作業には、多くの写真愛好家や見学者があり、地域の風物詩となっている。

###### ○銀章 鹿児島市松元土地改良区

鹿児島市の西部にあり、基幹作物であるお茶と、軟弱野菜の栽培が盛ん。受益面積は171ha、組合員数615名の土地改良区。

平成25年度には、21世紀土地改良区創造運動大賞を受賞しているが、最近では、多面的機能支払交付金事業においても広域協定を締結し、幅広い活動を展開している。

またグリーンツーリズムや農家民泊、営農組合、さらには農地中間管理事業への取り組み等にも意欲的で、都市住民との交流も活発に行っ

ている。

毎年夏と秋に行われる松元ダムのボランティア清掃は10年目を迎えた。

###### ○銀章 伊佐市大口東土地改良区

伊佐市東部に位置し、川内川水系の市山川と青木川を用水源とする受益面積286ha、組合員数430名の土地改良区。

多面的機能支払交付金を活用し、非農家も交えた地域の保全・活性化に努めている。

また伊佐市からの施設維持管理助成金を活用して、各水路組合において地域の要望に応じた施設補修等を行っている。

###### ○銅章 曾於東部土地改良区

大隅半島東部に位置し、曾於市と志布志市の畑地かんがい事業の実施区域を対象とする、受益面積3,130ha、組合員数4,018名の土地改良区。

昭和59年に国営事業が工事着工し、平成19年に水源施設中岳ダム本体工事が完了した。また、付帯事業として県営畑地帯総合整備事業が昭和60年に着工し、平成24年度末に完了した。

多面的機能支払交付金事業にも積極的に参画し、地区内の農地保全や施設の維持管理に取り組んでいる。さらに、関係機関との連携を図りながら、後継者不足や耕作放棄地の解消に向けた取り組みも実施している。

###### ○個人表彰(役員の一部)

###### 諏訪田 達夫 鹿児島市郡山土地改良区理事長

平成11年に前身の旧郡山土地改良区の役員に就任し、平成16年からは理事長として、土地改良区の健全な運営と事業導入などに積極的に取り組み、地域農業の発展と振興に、永年にわたり貢献された。

また信念をもって、指導・説得にあたる熱血

漢で、組合員や地域住民からの信望も厚い。

#### ○個人表彰(職員の一部)

##### 日高 光浩 笠野原土地改良区前事務局長

昭和54年に笠野原土地改良区に採用され、平成24年より事務局長を務める。国営かんがい排水事業をはじめ、各種事業の導入や推進、土地改良区の健全な運営等に貢献された。

かんがい事業完了後は、水を使った営農推進をはじめ、事業負担金の償還事務や賦課金の徴収、また、国営・県営で造成された施設の適正な維持管理等に尽力されている。

温厚で誠実な人柄で、組合員や地域住民等からも信頼を得ている。

### ◆農業農村整備優良地区コンクール表彰

#### ○農村振興整備部門

##### 農村振興局長賞 萩元前団地保全会

萩元前団地保全会は、いちき串木野市の西部に位置し、高齢化の進行に対する危機感から、農村振興総合整備事業を実施後、整備された農村公園やコミュニティ施設を有効活用し、農業を核とした地域コミュニティの形成に積極的に取り組んでいる。

特に、中山間地域等直接支払や、多面的機能支払の導入を契機に、農地・農業用施設等の保全管理とあわせて、地域の小学校との連携や、郷土芸能でもある「棒踊り」の保存、「田の神子ども相撲」等を通じた農業者とのふれあい活動を実施するなど、さまざまな多面的機能の維持・発揮を図る活動を行っている。

#### ○農業生産基盤整備部門

##### 全国水土里ネット会長賞 蔵之元地区

蔵之元地区は、長島町の西部に位置し、温暖な海洋性気候と粘土質の赤土が特色で、じゃがいもやサツマイモの栽培が盛んな地域。

基盤整備の実施によって、効率的で高収益のじゃがいも栽培が可能となった。また、同地区の事業推進が他地区の基盤整備実施を先導する役割も果たした。さらに、じゃがいものみで経営を確立することを示すことができ、町の産地振興にも貢献している。



受賞された皆さん

## 平成28年度 農業農村整備事業関係予算の概要

3月29日、国の平成28年度予算が可決・成立した。

農林水産省予算総額は、前年度当初より1億円多い、2兆3,091億円で、TPP対策を中心に農林水産関係で4,008億円を計上した27年度補正予算を合わせれば、2兆7,100億円となる。

このうち、農業農村整備事業関係予算は、水利施設の老朽化対策や防災・減災事業に重点的に対応するため、前年度当初予算を232億円上回る3,820億円が計上されている。

農業農村整備事業（公共）には、前年比107.6%の2,962億円をあてる等、強い農林水産業のための基盤づくりを推進することとされている。また、農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化として、農地の大区画化の推進（農業農村整備事業で実施）に913億円、農地耕作条件改善事業に123億円が計上された。予算の重点事項等は、次のとおり。

### 農業農村整備事業の概要

(単位:億円)

| 事 項             | 27年度  | 27年度 | 28年度  | 対前年度比<br>(%) | 27年度補正額<br>+ | 対前年度比<br>(%) |
|-----------------|-------|------|-------|--------------|--------------|--------------|
|                 | 当初予算額 | 補正額  | 概算決定額 |              | 28年度概算決定額    |              |
|                 | ①     | ②    | ③     | ③/①          | ②+③=④        | ④/①          |
| 農業農村整備事業        |       |      |       |              |              |              |
| 国営かんがい排水        | 1,053 | 90   | 1,179 | 111.9%       | 1,269        | 120.5%       |
| 国営農地再編整備        | 229   | 230  | 176   | 76.9%        | 406          | 177.2%       |
| 国営総合農地防災        | 228   | 50   | 262   | 114.9%       | 312          | 136.8%       |
| 直轄地すべり          | 19    | -    | 15    | 81.6%        | 15           | 81.6%        |
| 水資源開発           | 69    | -    | 70    | 101.2%       | 70           | 101.2%       |
| 農業競争力強化基盤整備     |       |      |       |              |              |              |
| うち農業競争力強化基盤整備   | 341   | 565  | 365   | 107.0%       | 930          | 272.8%       |
| 農業基盤整備促進        | 225   | -    | 61    | 27.0%        | 61           | 27.0%        |
| 農業水利施設保全合理化     | 45    | 15   | 69    | 153.9%       | 84           | 187.5%       |
| 水利施設整備(農地集積促進型) | 6     | -    | 6     | 100.0%       | 6            | 100.0%       |
| 農村地域防災減災        | 280   | 40   | 508   | 181.2%       | 548          | 195.5%       |
| 土地改良施設管理        | 155   | -    | 156   | 100.4%       | 156          | 100.4%       |
| その他             | 102   | -    | 96    | 93.7%        | 96           | 93.7%        |
| 計               | 2,753 | 990  | 2,962 | 107.6%       | 3,852        | 143.6%       |

(注) 1. 計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。  
2. 27年度補正額はTPP関連対策を含む。



<抜 粋>

平成28年度農林水産予算の重点事項

(※)各事項の( )内は、平成27年度当初予算額

1. 強い農林水産業のための基盤づくり

(1) 農林水産業の基盤整備(競争力強化・国土強靱化)

- ① 農業農村整備事業<公共> 2,962億円(2,753億円)【27補正:990億円】
  - ・ 農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地集積の加速化、農業の高付加価値化等のための農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化・耐震化対策等を推進
- ② 農地耕作条件改善事業 123億円(100億円)
  - ・ 農地中間管理事業の重点実施区域等において、農地中間管理機構と連携しつつ、担い手への農地集積の推進や高収益作物への転換を図るための計画策定や基盤整備、営農定着に必要な取組を一括支援
- ③ 農山漁村地域整備交付金<公共> 1,067億円(1,067億円)
  - ・ 地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援

2. 担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進

(1) 農地中間管理機構による農地集積・集約化

- ① 農地の大区画化等の推進<公共> 913億円(1,089億円)(農業農村整備事業で実施)【27補正:370億円】
  - ・ 農地中間管理機構による農地の借受け・貸付けとの連携等により、農地の大区画化・汎用化等を促進
- ② 農地耕作条件改善事業(再掲) 123億円(100億円)
- ③ 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金 2億円(3億円)
  - ・ 荒廃農地を再生利用するための雑草・雑木除去や土づくり等の取組を支援

3. 人口減少社会における農山漁村の活性化

(1) 日本型直接支払の実施

- ① 多面的機能支払交付金 483億円(483億円)
  - ・ 農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付
- ② 中山間地域等直接支払交付金 263億円(290億円)
  - ・ 中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付

(2) 再生可能エネルギーの導入促進

- ① 農山漁村活性化再生可能エネルギー導入等促進対策 6億円(10億円)
  - ・ 再生可能エネルギー発電事業による収入を地域の農林漁業の発展に活用する取組や農業水利施設を活用した小水力発電等に係る調査設計等を支援

## 平成28年度農林水産関係予算のポイント

### 水田フル活用の推進と経営所得安定対策

|                  |                         |              |
|------------------|-------------------------|--------------|
| ・水田活用の直接支払交付金    | 3,078億円( 2,770億円)       | 【27補正:160億円】 |
| ・畑作物の直接支払交付金     | (所要額) 1,948億円( 2,072億円) |              |
| ・収入減少影響緩和対策      | (所要額) 754億円( 802億円)     |              |
| ・米穀周年供給・需要拡大支援事業 | 50億円( 50億円)             |              |
| ・米の直接支払交付金       | 723億円( 760億円)           |              |

### 強い農林水産業のための基盤づくり

|   |                   |              |
|---|-------------------|--------------|
| <b>○ 農林水産業の基盤整備 (競争力強化・国土強靱化)</b>   |                   |              |
| ・農業農村整備事業<公共>   | 2,962億円( 2,753億円) | 【27補正:990億円】 |
| ・農地耕作条件改善事業   | 123億円( 100億円)     |              |
| ・森林整備事業<公共>   | 1,203億円( 1,203億円) | 【27補正:171億円】 |
| ・治山事業<公共>   | 587億円( 616億円)     | 【27補正:49億円】  |
| ・水産基盤整備事業<公共>   | 700億円( 721億円)     | 【27補正:80億円】  |
| ・農山漁村地域整備交付金<公共>  | 1,067億円( 1,067億円) |              |
| <b>○ 農林水産関係施設整備</b>   |                   |              |
| ・強い農業づくり交付金   | 208億円( 231億円)     |              |
| ・産地パワーアップ事業   |                   | 【27補正:505億円】 |
| ・農畜産物輸出拡大施設整備事業   |                   | 【27補正:43億円】  |
| ・加工施設等整備等緊急対策事業   |                   | 【27補正:46億円】  |
| ・森林・林業再生基盤づくり交付金 (次世代林業基盤づくり交付金(再掲))  | 61億円(内数)(27億円)    |              |
| ・合板・製材生産性強化対策事業   |                   | 【27補正:290億円】 |
| ・強い水産業づくり交付金  | 41億円( 35億円)       | 【27補正:39億円】  |
| ・水産業競争力強化緊急事業   |                   | 【27補正:225億円】 |
| ・特殊自然災害対策施設緊急整備事業   | 2億円( 1億円)         | 【27補正:2億円】   |
| <b>○ 産地の構造改革の推進</b>   |                   |              |
| ・新しい野菜産地づくり支援事業   | 11億円( 9億円)        |              |
| ・次世代施設園芸の地域展開の促進  |                   |              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代施設園芸拠点で得られた知見を活用した園芸施設の整備の支援 (強い農業づくり交付金で実施(再掲))</li> <li>・情報発信・実践的な研修等の支援(次世代施設園芸地域展開促進事業)</li> </ul> | 15億円( - )         | 10億円(20億円)   |
| ・国産花きの生産・供給対策   | 9億円( 7億円)         |              |
| ・農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立支援事業   | 3億円( 3億円)         |              |
| ・農業労働力資源活用支援総合対策事業(新掲)  | 3億円( - )          |              |

### 担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進

|                                |                 |              |
|--------------------------------|-----------------|--------------|
| <b>○ 農地中間管理機構による農地集積・集約化</b>   |                 |              |
| ・農地中間管理機構による農地の集積・集約化          | 81億円( 190億円)    |              |
| ・農地の次元集約等の推進<公共> (農業農村整備事業で実施) | 913億円( 1,069億円) | 【27補正:370億円】 |
| ・農地耕作条件改善事業(再掲)                | 123億円( 100億円)   |              |
| ・担い手確保・経営強化支援事業                |                 | 【27補正:53億円】  |

### 輸出の促進と日本食・食文化の魅力発信

|                             |               |              |
|-----------------------------|---------------|--------------|
| <b>○ 農林水産物・食品の輸出促進</b>      |               |              |
| ・輸出戦略の実行体制の強化               | 13億円( 11億円)   |              |
| ・輸出促進緊急対策                   |               | 【27補正:33億円】  |
| ・輸出総合サポートプロジェクト             | 15億円( 14億円)   |              |
| ・農畜産物輸出拡大施設整備事業(再掲)         |               | 【27補正:43億円】  |
| ・水産物輸出拡大緊急対策事業<一部公共>        |               | 【27補正:55億円】  |
| ・グローバル・フードバリューチェーン戦略の推進     | 1億円( 2億円)     |              |
| ・国際農産物市場情報提供事業              | 2億円( 1億円)     |              |
| ・輸出促進に資する動植物防疫体制の整備         | 4億円( 4億円)     |              |
| ・日本発食品安全管理規格・認証スキーム等の推進(再掲) | 1億円( - )      |              |
| ・日本発食品安全管理規格策定推進緊急調査事業      |               | 【27補正:0.1億円】 |
| ・食文化発信による海外需要拡大の加速化(新規)     | 8億円( - )      |              |
| <b>○ 日本食・食文化の魅力発信</b>       |               |              |
| ・食育の推進と国産農林水産物の消費拡大         | 8億円( 1億円)     |              |
| ・国産農林水産物・食品への理解促進事業         |               | 【27補正:4億円】   |
| ・食文化発信による海外需要拡大の加速化(新規)(再掲) | 8億円( - )      |              |
| <b>○ 食と農を活用したインバウンドの推進</b>  |               |              |
| ・食によるインバウンド対応推進事業(新規)       | 1億円( - )      |              |
| ・おみやげ農畜産物検査受検円滑化支援事業        | 0.5億円( 0.2億円) |              |
| ・農山漁村おみやげ農畜産物販売促進事業         |               | 【27補正:4億円】   |
| ・食文化発信による海外需要拡大の加速化(新規)(再掲) | 8億円( - )      |              |
| ・地理的表示等活用総合対策事業(再掲)         | 2億円( - )      |              |
| ・輸出総合サポートプロジェクト(再掲)         | 15億円( 14億円)   |              |
| ・6次産業化支援対策(再掲)              | 24億円( 27億円)   |              |

### 品目別生産振興対策

|               |                         |             |
|---------------|-------------------------|-------------|
| ・野菜価格安定対策事業   | (所要額) 171億円( 167億円)     |             |
| ・果樹・茶支援関連対策   | 70億円( 69億円)             |             |
| ・甘味原料作物生産支援対策 | 93億円( 81億円)             | 【27補正:15億円】 |
| ・畜産・酪農経営安定対策  | (所要額) 1,701億円( 1,708億円) |             |

### 食の安全・消費者の信頼確保

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| ・消費・安全対策交付金       | 18億円( 18億円) |
| ・家畜衛生等総合対策        | 55億円( 55億円) |
| ・産地偽装等取組強化対策      | 3億円( 3億円)   |
| ・食品リサイクル促進等総合対策事業 | 1億円( 1億円)   |

|                                    |               |              |
|------------------------------------|---------------|--------------|
| ・果樹支援関連対策(果樹・水産関係対策で実施)            | 56億円( 55億円)   |              |
| ・耕作放棄地再生利用緊急対策交付金                  | 2億円( 3億円)     |              |
| <b>○ 果樹委員会等の活動による農地利用の最適化</b>      |               |              |
| ・農業委員会の活動による農地利用最適化の推進             | 73億円( 53億円)   |              |
| ・機構集積支援事業(農地中間管理機構による農地の集積・集約化で実施) | 22億円( 28億円)   |              |
| <b>○ 多様な担い手の育成・確保</b>              |               |              |
| ・農業経営力向上支援事業                       | 7億円( 5億円)     |              |
| ・新規就農・経営継承総合支援事業                   | 193億円( 195億円) | 【27補正:23億円】  |
| ・うち青年就農給付金                         | 116億円( 122億円) | 【27補正:23億円】  |
| ・経営継承育成支援事業                        | 30億円( 32億円)   |              |
| ・担い手経営継承支援資金融資対策                   |               | 【27補正:100億円】 |
| ・中山間地域等担い手収益力向上支援事業                |               | 【27補正:10億円】  |
| ・中山間地域等担い手収益力向上支援事業                |               | 【27補正:10億円】  |
| ・収入確保制度検討調査費                       | 2億円( 5億円)     |              |

### 畜産・酪農の競争力の強化

|   |                         |              |
|---|-------------------------|--------------|
| <b>○ 畜産・酪農の収益性向上</b>                    |                         |              |
| ・畜産・酪農収益強化整備等特別対策事業                     |                         | 【27補正:610億円】 |
| ・畜産クラスターを後押しする草地整備の推進<公共> (農業農村整備事業で実施) |                         | 【27補正:164億円】 |
| <b>○ 畜産・酪農の生産力強化</b>                    |                         |              |
| ・畜産・酪農生産力強化対策事業                         | 2億円( 2億円)               | 【27補正:30億円】  |
| ・和牛・生乳の生産拡大を支える研究開発(産地・産地ネットワーク研究で実施)   | 2億円( 3億円)               |              |
| <b>○ 自給飼料の生産拡大</b>                      |                         |              |
| ・飼料増産総合対策事業                             | 10億円( 11億円)             |              |
| ・草地維持除草等緊急対策事業                          |                         | 【27補正:7億円】   |
| ・飼料生産型酪農経営支援事業                          | 68億円( 66億円)             |              |
| ・草地関連基盤整備<公共> (農業農村整備事業で実施)             | 48億円( 62億円)             |              |
| <b>○ 畜産・酪農経営安定対策の実施</b>                 |                         |              |
| ・畜産・酪農経営安定対策                            | (所要額) 1,701億円( 1,708億円) |              |
| ・畜産経営力強化支援資金融資事業                        |                         | 【27補正:20億円】  |

### 農林水産物・食品の高付加価値化等の推進

|                                   |                  |              |
|-----------------------------------|------------------|--------------|
| <b>○ 6次産業化の推進</b>                 |                  |              |
| ・農林漁業成長産業化ファンドの積極的活用(財政資金)        | 出資枠150億円・貸付枠50億円 |              |
| ・6次産業化支援対策                        | 24億円( 27億円)      |              |
| <b>○ 匠職食農など異業種との連携の推進</b>         |                  |              |
| ・農山漁村地域特産物産地確立支援事業(産地ネットワーク研究で実施) | 5億円( 4億円)        |              |
| ・外食産業等と連携した需要拡大対策事業               |                  | 【27補正:36億円】  |
| ・革新的技術開発・緊急展開事業                   |                  | 【27補正:100億円】 |
| ・異分野との融合を含む産学連携の更なる強化             | 20億円( 13億円)      |              |
| ・地理的表示等活用総合対策事業(新規)               | 2億円( - )         |              |

### 人口減少社会における農山漁村の活性化

|                                    |               |             |
|------------------------------------|---------------|-------------|
| <b>○ 日本型直接支払の実施</b>                |               |             |
| ・多面的機能支払交付金                        | 483億円( 483億円) |             |
| ・中山間地域等直接支払交付金                     | 263億円( 290億円) |             |
| ・環境保全型農業直接支払交付金                    | 24億円( 26億円)   |             |
| <b>○ 他省庁と連携した農産物のネットワーク化・定住の促進</b> |               |             |
| ・離島農業再生支援交付金                       | 12億円( 12億円)   |             |
| <b>○ 都市と農山漁村の共生・対立等</b>            |               |             |
| ・農山漁村協働交付金(新規)                     | 80億円( - )     |             |
| ・うち山村活性化支援交付金                      | 8億円( - )      |             |
| ・都市農業機能発揮対策事業                      | 2億円( 2億円)     |             |
| <b>○ 再生可能エネルギーの導入促進</b>            |               |             |
| ・農山漁村活性化再生可能エネルギー導入等促進対策           | 6億円( 10億円)    |             |
| ・地域バイオマス産業化推進事業                    | 7億円( 8億円)     |             |
| ・木質バイオマスの利用拡大                      | 5億円( 5億円)     |             |
| <b>○ 鳥獣被害防止対策の推進</b>               |               |             |
| ・鳥獣被害防止総合対策交付金                     | 95億円( 95億円)   | 【27補正:12億円】 |
| ・シカによる森林被害緊急対策事業                   | 2億円( 2億円)     | 【27補正:1億円】  |

### 林業の成長産業化・森林吸収源対策の推進

|                     |                   |              |
|---------------------|-------------------|--------------|
| ・次世代林業基盤づくり交付金      | 61億円( 27億円)       |              |
| ・合板・製材生産性強化対策事業(再掲) |                   | 【27補正:290億円】 |
| ・林業の低コスト化と花粉症対策の推進  | 13億円( 9億円)        |              |
| ・新たな木材需要創出総合プロジェクト  | 12億円( 14億円)       | 【27補正:18億円】  |
| ・違法伐採対策の推進          | 0.4億円( 0.3億円)     |              |
| ・違法伐採緊急対策事業         |                   | 【27補正:2億円】   |
| ・森林・山村の多面的機能の発揮対策   | 25億円( 25億円)       |              |
| ・森林・林業人材育成対策        | 59億円( 61億円)       | 【27補正:3億円】   |
| ・森林整備事業<公共>(再掲)     | 1,203億円( 1,203億円) | 【27補正:171億円】 |
| ・治山事業<公共>(再掲)       | 587億円( 616億円)     | 【27補正:49億円】  |

### 水産日本の復活

|                          |               |              |
|--------------------------|---------------|--------------|
| ・浜の担い手・地域活性化対策           | 9億円( 10億円)    | 【27補正:3億円】   |
| ・資源管理・資源調査の強化            | 39億円( 37億円)   |              |
| ・漁業経営安定と漁業構造改革の推進        | 334億円( 386億円) | 【27補正:85億円】  |
| ・水産物の加工・流通・輸出対策          | 15億円( 15億円)   |              |
| ・水産物輸出拡大緊急対策事業<一部公共>(再掲) |               | 【27補正:55億円】  |
| ・水産多面的機能の発揮対策と離島漁業の再生支援  | 40億円( 40億円)   |              |
| ・産地偽装対策                  | 14億円( 14億円)   |              |
| ・捕鯨対策                    | 51億円( 19億円)   |              |
| ・強い水産業づくり交付金(再掲)         | 41億円( 35億円)   | 【27補正:39億円】  |
| ・水産業競争力強化緊急事業(再掲)        |               | 【27補正:225億円】 |
| ・水産基盤整備事業<公共>(再掲)        | 700億円( 721億円) | 【27補正:80億円】  |



### 水土里ネットの更新情報 (設立・解散、理事長の変更等)

#### ●新理事長

大隅町笠木原土地改良区

鮫島 正和

就任日:平成28年3月11日

伊佐市平出水土地改良区

丸田 和時

就任日:平成28年3月14日

霧島市国分土地改良区

中重 真一

就任日:平成28年3月29日

川辺町土地改良区

砂走 精一

就任日:平成28年4月1日

始良市春花土地改良区

福村 敏男

就任日:平成28年4月1日

始良市西餅田土地改良区

南 のぶ子

就任日:平成28年4月1日

鹿屋市土地改良連合会(会長)

畠井 孝二

就任日:平成28年4月1日

沖永良部土地改良区

河田 兼彦

就任日:平成28年4月1日

隼人町錦土地改良区

池田 辰郎

就任日:平成28年4月22日

蒲生町三大字土地改良区

松元 健一

就任日:平成28年5月4日

#### ●解散

唐仁原土地改良区

認可日:平成28年3月22日

徳之島土地改良区

認可日:平成28年3月30日

#### ●事務所移転

鹿児島市松元土地改良区

〒899-2705 鹿児島市直木町4596

伊佐市羽月西土地改良区

〒895-2527 伊佐市大口田代277-6

## 熊本地震義援金へのご協力 ありがとうございます

このたびの熊本地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方へ心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心より願っております。

水土里ネット鹿児島では、被災地を支援したいという全国水土里ネットの呼びかけに賛同し、役職員ならびに会員である土地改良区に、義援金の協力をお願いしました。その結果、多くの皆さま方からご賛同いただき、多くの義援金が集まりました。この義援金は、全国水土里ネットを通じて、被災された地域へお届けいたします。

皆さまの温かい善意に感謝申し上げますとともに、ご協力に対し、厚くお礼申し上げます。ご協力、ありがとうございました。

#### ●水土里ネット-鹿児島にお寄せいただいた義援金

会員(土地改良区の役職員)及び本会役職員 1,162,000円(平成28年5月31日現在)



## 水土里ネット曾於北部 観光ツアー客に谷川内ダムや水土里ネットを紹介



ダム放流設備で水利用等についての説明

水土里ネット曾於北部（池田孝理事長）は、鹿児島県旅行業協同組合 魅旅が企画する「曾於の春!先取り体験ツアー」に、曾於市観光特産開発センターの依頼を受け、協力した。

3月10日に開催されたツアーには、鹿児島市や日置市から54名が参加した。バス2台に分乗した一行は、道の駅すえよしでの買い物やランチをはじめ、養蜂場の見学、トマトや椎茸の収穫を体験した後、水土里ネットが管理する谷川内ダムへ向かった。

谷川内ダムでは、水土里ネットの高井田繁事務局長と大園敦彦技師補が参加者を出迎え、ダムの堤体や管理棟などの土地改良施設を案内した。そして、国営曾於北部土地改良事業で建設された谷川内ダムや粟谷頭首工によって、新たな水源が確保されたことや、かんがい用水を農地に送るための用水路やファームポンド、揚水機場の建設等の事業概要について説明した。また、現在はそれぞれの農地へ水が送られるよう畑地かんがい施設の整備が県営事業で進められており、事業が進むと干ばつ被害が減り、新たな作物の導入や計画的な営農、農作業の省力化が図られ、安定的な農業経営ができること等を、パンフレットを用いながら説明した。管理棟では、ダムの管理方法や水土里ネットの業務等についても説明した。

参加者からは、「事業費に対して効果が小さいのでは」という意見も出たが、長期的な視点

で見ると、営農には水が欠かせず、地域農業の発展には同事業の推進が不可欠であることを説明し、理解をしていただいた。また、事前に見学したトマトのほ場、道の駅等で販売されている農作物等もダムの水利用と関わっていることが理解され、暮らしと関わる身近なものとして捉えてくれたようだ。

説明終了後、参加者はダム周辺を散策し、鳥のさえずりや緑深い景観等を楽しんだ。

このツアーは好評だったことから、2回目が4月5日に企画され、25名が参加した。

現在、谷川内ダムの一般開放は行われていないが、水土里ネットではこれまでも曾於市立財部小学校の児童をはじめ、近隣高校の農業クラブ、市茶業振興会、老人クラブ等から要請を受け、視察を受け入れてきた。

高井田事務局長は「今回の企画では、ダムの水利用について理解を示していただき、ダム湖周辺の散策も楽しんでいただけた。土地改良区としても、ダムをはじめとする土地改良施設や畑かん事業について、できるだけ多くの方々に理解してほしいと願っている。今後もこうした観光ツアーや視察等を受け入れ、PRに努めていきたい。畑かん事業の推進で、地域農業はさらに多様化していくと考えている。四季折々の農作物を、ツアー参加者や曾於市を訪れた人たちに楽しんでもらえるよう、今は、末端施設の早期完成を願っている」と話してくれた。



ダムの概要説明を聞く参加者

## きらり★水土里女子

田口 まゆみ さん(伊佐市羽月西土地改良区)



移転したばかりの事務所にて

伊佐市羽月西土地改良区(橋口昭夫理事長)は、組合員数300名、受益面積178.8haの水田が中心の土地改良区だ。

書記の田口まゆみさんは、平成10年10月からパート職員として土地改良区に入り、前任者が退職した平成15年9月からは正職員として、一人で事務を担っている。

JAに勤めていた経験もある田口さんだが、勤め始めた頃は、農業に関わるという点ではJAと同じでも、土地改良区の仕事には戸惑うことが多かったそうだ。会計方式の違いに始まり、現場があること、時には女性では飛び越えられそうにない広さや高さの現場にも行く。その現場や打合せで飛び交う、土地改良事業で使われる工事の専門用語には特に頭を悩ませた。はじめのうちは、男性ではないことで相手にしてもらえない悔しい思いも経験してきた。「たいていのことは慣れましたが、未だにヘビだけはどうしても苦手で、現場に行くときは、どうかヘビが出ませんように、と祈りながら向かっています」と言う。

土地改良区が最も忙しいのは、賦課金徴収が始まる11月頃だ。賦課にあわせて、広報誌「土地改良区だより」も発行している。3月の総代会が終わるまでは、気の休まらない日が多い。また、水土里サークル活動の事務委託も4つの活動組織から受けており、年度初めは対応に追われる。梅雨や台風の時期は、災害が起きないか気が気ではない。最近の悩みは、高齢化の進行による担い手不足と耕作放棄地の発生、シカに

よる作物の被害だ。先進地を見て対応策を勉強したいと思っている。聞けば決して少なくはない仕事量だが、要請があればいつでも現場にかけつけられるよう、段取りを工夫しているようだ。

田口さんによると、この地域は穏やかで真面目な方が多く、理事長をはじめ役員や総代が協力的で助かっているそうだ。また、ベテランの役員が多い中、昨年は、土地改良区初となる女性総代と、30代の若手総代が誕生し、これからは楽しみだと思っているそうだ。

橋口理事長も「田口さんは仕事の処理が早く正確で、苦情がきて大変な状況でも、女性らしい柔らかい物腰で組合員さんに対応してくれるので、役員や組合員からの信頼がとて厚い」と目を細めて話してくれた。

田口さんのストレス解消法は、伊佐市にある土地改良区の女性職員で行う女子会だ。この女子会は、情報交換だけにとどまらず、歌や踊りもできるほどの盛り上がりようで、本当に楽しいそうだ。もう一つの楽しみは、福岡で一人暮らしをする大学生の一人娘に会いに行くこと。数カ月に一度は車で出かけている。

最近、嬉しい出来事があった。この4月、土地改良区の事務所が移転し、打合せ室や書類棚が十分に確保できるようになった。さらに嬉しかったのは、理事が総出で引っ越し作業を行い、一緒に事務所を整えてくれたことだ。

「土地改良区の仕事は事務、会計、接客、相続関係の相談、現場、パソコンと幅広く対応できることが求められ、女性では難しいと感じることもたくさんあります。どんな苦情でも、その言葉に耳を傾け、現場に出向く等、自分のできる範囲で誠意をもって対応することを心がけています。できないこともあります。少しでも認めてもらえるよう、まだまだ勉強していきたいです」と、田口さんは優しい笑顔で話してくれた。

## 棚田等保全ネットワーク研修会を開催



日之影町職員による講演

本会では、棚田等の保全に取り組む活動組織や棚田等保全協議会がこしまの会員、県、市町村、本会職員等を対象に、2月3日、棚田等保全ネットワーク研修会を県土地改良会館において開催した。

この研修会は、鹿児島県が行っている中山間ふるさと・水と土保全推進(棚田)事業の一環で、棚田等の保全活動や交流活動、地域活性化の事例等を学ぶことで、地域づくりの一助になることを目指している。研修会には、各地から66名が出席した。

はじめに、本会の有馬重徳事業部長が「棚田は重要な役割を果たしているにもかかわらず、条件不利地域にあることから多くの課題に直面している。この研修が棚田の保全や活性化に繋がることを期待する」と挨拶した。

次に、宮崎県日之影町地域振興課の富士本浩一郎課長補佐が、「『自然の恵みが人を呼ぶ里』の実践」をテーマに講演を行った。

富士本氏は、宮崎県最北の山間部に位置する日之影町の概要と、石垣の村として有名な戸川地区について紹介した。

戸川地区は、日之影川沿いに8kmほど北の戸川岳の麓にある集落で、世帯数は7戸、住宅地や石蔵、防風垣、棚田に至るまで、その周囲は石積みで築かれている。平成11年に農林水産省が選定する「日本の棚田百選」に認定されたほか、平成12年には第8回美しい日本のむら

景観コンテストで全国農協中央会会長賞、平成23年には過疎地域自立促進連盟会長賞等、県内外で多くの表彰を受けている。

この地区は、戸川地区石垣の村管理組合によって管理されている。富士本氏は、この地区の住民で、同管理組合の副委員長として、事業の連絡調整や組合長の補佐役も務めているそうだ。

研修会では、戸川地区の石垣で築かれた美しい風景や、平成12年度から取り組む棚田まつりで、神楽の奉納、セラピーウォーキング、餅つきやコンサートの様子、また一般市民向けの集落散策では、地元住民がガイドを務めていることなどが紹介された。

このほか、昭和57年から小水力発電に取り組む日之影発電所の概要や、町面積の91%を森林が占めることから、この環境を活かした取り組みを全国に先駆けて行っていることも紹介された。

平成18年4月には、全国初、九州では唯一の「森林セラピー基地」に認定された。簡易な健康チェックをした後、森林浴やウォーキング、郷土料理等の提供、農作業や収穫、田舎料理づくり等の体験を織り交ぜた、日帰り・宿泊のプランがあり、参加者の評価も高いそうだ。

また、都市農村交流として、東京都六本木の朝日神社境内で「ほおすき市」の開催をはじめ、福岡市博多区の商店街や東京都港区で特産品の販売も行っているそうだ。

さらに最近では、ロープを使わずに岩を登るフリークライミング「ボルダリング」の競技会が開かれるなど、日之影町のさまざまな実践活動が紹介された。

続いて、県農村振興課の松永雄輔主事が、県内の中山間ふるさと・水と土保全推進(棚田)事業の概要説明を行った。

最後に、さつま町で棚田保全活動に取り組む、薬師農地保全会の上別府輝光書記が「『地域活性化に挑む薬師農地保全会』～とりもどそ

「う!活気あふれる薬師の里～」をテーマに、事例を発表した。



薬師農地保全会による事例発表

薬師農地保全会は、平成27年2月に発足した組織で、平均年齢は59歳、男性7名、女性1名で構成される。平成27年の正月に開かれた祝賀会で「300年もの歴史がある棚田や棚畑が荒れているから、これをなんとか復活させたい」という話から翌2月には趣旨に賛同するメンバーで保全組織を結成。そこから、保全会の活動は始まった。

まずは現状を把握するため、グループ全員で現地を視察した。棚田は石垣も見えないほどススキが伸び、猪や鹿が我が物顔で駆けまわっていた。そこで、まず荒れ地の開墾に取り組むことにした。サツマイモとソバを作り、収穫祭を行おうと年間計画を立て、副会長宅で結成会を開いて意見を交わした。3月には、本会とさつま町役場職員を交えて打合せを行い、平成27年度から県ふるさと水と土保全推進（棚田）事業を活用して、保全活動に取り組むことが決まった。

これまでの活動として、メンバー全員で草刈りと野焼き、焼き畑の耕運作業を行った。耕運では、ススキの根と石ころに難儀したようだ。さらに、猪や鹿の対策として、メッシュやネットを張ることにしたが、その杭には、経費節減のため「スнке」と呼ばれる倒れて芯だけが残ったヒノキを山から伐りだして使った。そうして誕生した畑には、サツマイモの苗600本を植え、残りはソバの種をまいた。棚田を紹介する

看板も手づくりのものを用意した。

10月には、棚田推進事業の一環で行われたバスツアーにも協力した。集落としても保全会としても初めてのおもてなし。参加者の安全を第一に考え、稲刈りや水鉄砲づくりなどを体験してもらった。昼食は集落の人たちに手伝ってもらい、かまどで炊いた新米や豚汁、ガネの天ぷら等、肉以外はすべて集落で採れた農産物でもてなした。参加者の喜ぶ顔が見られ、10年以上聞かれなかった子ども達の声が集落に響き渡った。保全会の取り組みは、南日本新聞でも紹介された。

このほか、町主催やイオンモール鹿児島でのイベントへの参加や、ソバ打ち体験等にも取り組んだ。

上別府氏は「集落の交流会で、年長者から『わいたちやきばったが（あなたたちはがんばったね）』と声をかけていただき、励みになった。今後も頑張って保全活動に取り組んでいきたい」と締めくくった。

参加者からは「地域づくりに取り組む方の本音が聞けた」や「薬師保全会の意識の変化や交流で得たもの、初めての体験等を伺ったが、その多くで成果を出されていた」、「薬師保全会のメンバーの一体感が伝わってきた。今後、機会があれば交流したい」、「棚田の研修は少ないのでこれからも開催してほしい」、「各地の活動を参考にこれからも保全活動に取り組んでいきたい」等の意見が寄せられた。



研修会に参加する棚田関係者たち

## 棚田と水土里サークル活動パネル展inイオンモール鹿児島を開催



パネルと広報誌でPR

本会では、3月14日～19日にかけて、棚田・水土里サークル活動パネル展inイオンモール鹿児島を鹿児島県と県水土里サークル活動支援協議会、イオンモール鹿児島とともに開催した。この催しは、棚田・棚畑の保全や水土里サークル活動（多面的機能支払交付金）に取り組む地域や活動を紹介し、農業や農村の持つ多面的機能について理解を深めてもらおうと、平成24年度から開催している。

14日～18日は、棚田の役割や棚田地域の取り組み、多面的機能支払交付金事業の概要を紹介するパネル展示をはじめ、棚田や棚畑の美しい風景や農作業の様子が写し出された「かこしまフォト農美展」の写真等を展示した。あわせて、棚田通信や地球人会議かこしまの広報誌「へそ」も配布した。

また19日は、パネル展示に加えて、缶バッジづくり体験、お米や生きものに関するクイズ、風船と棚田米のプレゼントも行った。

棚田保全活動に取り組む県内7地域から300個の棚田米が準備され、午前と午後の2回に分けて配られた。おいしい棚田米のプレゼントと聞いて、コーナーの前は買い物客等で長蛇の列となり、担当者等がひとりひとりに棚田地域の説明をしながら手渡した。

また、棚田の保全活動に取り組むさつま町永野地区の薬師農地保全会もこのイベントに参



棚田米をプレゼント

加し、棚田米や早堀竹の子、そば粉等を販売した。市価より安く、新鮮な農産物は大好評で、早々に完売した。

来場者からは、「クイズは難しかったけど、勉強になった」(7歳男児)、「子どもたちには缶バッジ、私には棚田米と思わぬプレゼントをいただき、とても嬉しかった」(30代女性)、「以前から棚田米は美味しいと聞いていたが、食べたことがなかったので、いただいた棚田米を試食するのが楽しみ」(40代女性)、「今度、孫を連れて、田植えを見に行きたい」(60代男性)等の声が寄せられた。

19日のイベントには、600人を超える人が訪れた。鹿児島の農業や農村に興味を持ってもらうきっかけとなったようだ。



薬師農地保全会の特産品販売



## 平成27年度 土地改良換地士部会 及び換地業務検討会を開催

平成27年度土地改良換地士部会及び換地業務検討会が、土地改良換地士の技術力向上を図り、換地処分事務を円滑に推進することを目的に、2月12日、県土地改良会館で開催された。換地士部会には、県内の土地改良換地士ら26名が、また換地業務検討会には、土地改良換地士を含む換地業務担当者ら31名が出席した。

部会では、九州各県で開催された換地関係異議紛争処理対策検討会や換地技術者育成・確保連絡会議に出席した本会職員より報告が行われた後、県農地整備課用地換地係より換地計画書作成業務における留意点が説明された。

あわせて行われた意見交換会では、分筆登記業務に伴う地積測量図・立会証明書作成や、標準地比準方式を採用した場合の評価基準について意見が出され、活発な議論が交わされた。

引き続き開催された換地業務検討会では、各管内の現状が報告された後、マイナンバー制度導入に伴う個人情報の取り扱いに関する留意点や換地システム開発全国会議の報告等が行われ、換地業務を取り巻く情勢や今後の課題が再確認された。



換地士部会

## 平成27年度 農地利用集積 推進対策会議を開催

平成27年度農地利用集積推進対策会議が、県農地整備課、県農業会議、県地域振興公社、市町村、土地改良区、本会から構成される委員ら13名が出席のもと、2月26日、県土地改良会館において開催された。

同会議は、水土総合強化推進事業（実施期間H27まで）における農地利用集積に関する指導の一環として実施されたもので、当日は、事業推進地区からの報告と、意見交換が行われた。

推進地区として、平成26年度から農地利用集積に取り組んでいる志布志市牧野地区からは、関係農家の意向を踏まえ、中核農家を地区の担い手と位置づけ、利用権設定等による農地集積が図られるよう指導を行ってきたことが報告された。そして、今後は農地中間管理事業を活用した集積指導を行うという方針が示された。

また、平成27年度から農地利用集積に取り組む和泊町畦布地区からは、関係農家の意向を把握するため、アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて、土地改良区や農業委員会と連携を図り、農地中間管理事業を活用しながら、担い手へ農地利用集積を推進していくことが発表された。



農地利用集積推進対策会議

## 水土里情報システム(MK-Maps) 運用研修会を開催



演習問題に取り組む参加者

本会では、5月16日から20日にかけて、鹿児島県水土里情報システム(MK-Maps)を導入している団体等を対象に、水土里情報システム運用研修会を県土地改良会館で開催した。

この研修会は、システムの運用を円滑に進めるための、基本的な操作方法と運用方法を習得することにより、水土里情報システムの有効活用を図っていただくことを目的に開催している。

今回は、一日の参加人数を10名程度に絞り、希望した利用団体43名(27団体)を5回に分けて開催した。

研修会では、MK-Mapsの概要と基本操作について本会職員が説明を行い、参加者は実際にシステムを操作し、演習を交えながら、操作方法やさまざまな機能と運用方法について学んだ。

また、MK-Mapsの会員専用サイト(Mapサーバー)が紹介され、更新された最新の地図データをダウンロードし、MK-Mapsに取り込む方法についても学んだ。

### － 研修内容 －

- 水土里情報システム(MK-Maps)の概要
- 水土里情報システム(MK-Maps)の操作説明
- 水土里Mapサーバーと水土里Cloudについて
- 質疑応答

## 標準積算システム運用 研修会を開催



パソコンを使った操作研修

本会では、5月17日と18日に、標準積算システム運用研修会を県土地改良会館で開催した。

この研修会は、標準積算システムを導入している市町村等の担当者を対象に、システムの運用を円滑に進めるための運用手順と積算書作成手順を習得することを目的に、毎年開催している。

同研修会は、2回に分けて開催され、市町村や土地改良区、本会から56名が参加した。

研修会では、標準積算システムVer.3の概要と基本操作について、本会職員が説明を行った。参加者は、標準積算システムを操作し、当初積算書の作成から変更積算書の作成まで、一連の流れを通して操作方法やさまざまな機能、運用上の注意点を学んだ。

標準積算システムは、県内40市町村と3土地改良区、1公社が導入を行い、本会がシステムサポートを行っている。

### － 研修内容 －

- 標準積算システムの概要
- 標準積算システムの操作説明
- 操作演習
- 質疑応答

## 県農業集落排水事業連絡協議会 第26回通常総会を開催



通常総会

本会に事務局を置く鹿児島県農業集落排水事業連絡協議会（会長：隈元新・伊佐市長）は、第26回通常総会を5月26日、県土地改良会館において開催した。

総会には、会員23名（委任状含む）のほか、県都市計画課、本会から6名が出席した。

同協議会は、農業集落排水事業の円滑な推進に資することを目的に、同事業を計画、実施または完了した地区をもつ23市町村が会員となり、事業の要請活動をはじめ、啓発・広報、情報収集及び提供、教育研修等を行っている。

はじめに、隈元会長が、熊本地震へのお見舞いと復旧支援の協力に対するお礼の後、「農業集落排水施設は、農村地域の生活環境改善において貢献しているものの、近年は施設の老朽化や機器の不具合等により、機能強化対策を行う施設が年々増えてきている。設置後20年を経過した施設は、今後10年間で8割に達する見込みで、施設の長寿命化を図るための保全対策と施設の更新整備計画を積極的に進めていかなければならない。今年度も農業集落排水事業の円滑な実施を目指した各種活動を推進してまいりたい」と挨拶を述べた。

その後、平成27年度事業実績及び収支決算の報告と、平成28年度事業計画及び収支予算が審議され、いずれも原案どおり承認された。

## 地球人会議かごしま 平成28年度 運営委員会を開催



運営委員会開催

本会に事務局を置く地球人会議かごしま（浜本奈鼓会長）は、平成28年度運営委員会を5月26日、県土地改良会館において開催した。同委員会には、役員及び運営委員、本会職員ら18名が出席した。

同会議は、県内の有識者たちが発起人となり、食料や環境、ふるさと鹿児島をテーマに、農業や農村の魅力を再発見し、発信していくことを目的に、平成9年度より活動している。

はじめに、浜本会長が、来年20周年を迎える同会議の活動を振り返り、感謝を述べた。

その後、平成27年度事業実績及び収支決算の報告と、平成28年度事業計画及び収支予算が審議され、いずれも原案どおり承認された。

今年度は、広報誌「へそ」の発行をはじめ、第9回ふるさと再発見シンポジウムを10月23日に、鹿児島中央公民館で開催する予定。

委員からは、「広報誌やシンポジウムのテーマを振り返ると、具体的な事柄をとりあげつつ、方向性は一貫していることがよくわかる」や「私たちが掲げているテーマのひとつ『ふるさと』には、とても広い意味が込められている」、「来年は20周年。ふるさととは何か考える活動に今年も取り組みたい」等の意見が出された。

同会議の活動は、ホームページやfacebookでも紹介している。ぜひご覧ください。

## 平成27年度 第2回農村環境 保全専門委員会を開催

3月28日、平成27年度の第2回目となる農村環境保全専門委員会が、県土地改良会館において開催された。

同委員会は、農業農村整備事業に関する環境保全の課題や整備方針等について検討するため平成18年度に設置されたもので、動植物や農村計画、農村社会学の専門分野における学識経験者9名から構成されている。

委員会では、鹿児島県内の農業農村整備に関する環境保全について検討を重ねてきたが、11回目となる今回は、県内の環境との調和に配慮した実施事例やその後の管理体制、地域住民との関わりについてとりまとめた「かごしま農業農村整備 環境配慮事例」作成の最終協議を行った。同委員会では、平成22年度にも「環境との調和に配慮した事業計画のための手引き」を作成している。

「かごしま農業農村整備 環境配慮事例」は、平成26年9月に開催した委員会から検討を始め、県内で実施された事業の事例収集や、学識者とともに現地確認を行うなどして、農業農村整備事業の主要工種である、ほ場整備、用排水路施設整備、河川工作物整備（頭首工）、農道整備、ため池整備から代表的な事例をとりまとめたもの。なお、本事例の一部は、本誌トピックスでも紹介している。

本会では、今後も県内における、環境との調和に配慮した事業実施に寄与できるよう取り組んでいくこととしている。



農村環境保全専門委員会

## 種子・屋久の新しい農業農村整備を 進める会がカレンダーを作成

種子・屋久の新しい農業農村整備を進める会（会長：田淵川寿広・中種子町長）は、熊毛管内の市町村、土地改良区等が会員となり、農業農村整備事業を通じて、地域の農業や農村の発展に寄与することを目的に活動している。

同会では、種子屋久地域の農家や地域の方々が、夢と希望に満ちた農業ができるよう、農業農村整備事業を推進したいと、事業啓発活動の一環として、今年3月、平成28年度版カレンダーを作成した。

同カレンダーは、牛之原環境保全会（中種子町）のコスモス畑を背景に、ほ場整備推進委員会やふるさと探検隊の取り組みをはじめ、水士里サークル活動の様子やほ場整備事業、土層改良事業、畑地かんがい事業、鳥獣害対策事業等の農業農村整備事業を写真でわかりやすく紹介している。

地域農業を支える農業農村整備事業には、地域の合意が不可欠。だからこそ地域が中心となって将来について話し合い、多様な知恵と力をあわせて問題を解決して欲しい。カレンダーには、農業農村整備事業に携わる関係者たちの願いが込められている。



種子・屋久地域の農業農村整備事業をPR

## 疏水のある風景写真コンテスト2015 本県から1名が優秀賞、2名が入選

疏水を含む農業水利施設の役割や多面的な機能について広く知ってもらおうと、全国水土里ネットと疏水ネットワークが主催する疏水のある風景写真コンテストが実施され、2月10日、写真家の織作峰子審査員による審査会が開催された。

同コンテストには、全国の写真愛好家74名から、各地の魅力ある疏水を写した152点の作品が寄せられ、最優秀賞1点、優秀賞2点、農村振興局長賞、全土連会長賞1点、入選15点選ばれた。

本県からは、鹿児島市の長勝幸さん(77)が霧島市の霧島神宮御斎田で撮影した「華やかなお田植え祭」が優秀賞に選ばれた。

また、諏訪園保さん(78)が鹿屋市串良町の川原園井堰で撮影した「柴井堰の掛け替え」と、山田宏作さん(57)が宮崎県日南市で撮影した「坂元棚田」が入選に選ばれた。

織作審査員は「毎回、応募作品を拝見すると、皆さんの力で疏水が守られているのを感じ、自分たちの身近にある疏水のことをしっかりと捉え、四季折々で表現している作品が上位に入賞した。これからも春夏秋冬を捉え、疏水がもたらす幸せや豊かな農村風景を撮影してほしい。そして、本コンテストを通じて、今まで気づかなかった疏水の表情に気がつくきっかけにしてほしい」と講評した。

そして、優秀賞を受賞した長さんの「華やかなお田植え祭」には「非常に古式ゆかしい衣装を着て、お田植えの儀式を執り行っている。水面に人物が映り込み、鏡のようにきれいで、水自体の美しさが際だっている。地域の方々が、いかに水を大事に守り伝えているか、その精神性までもが表れている」と評した。

写真愛好家の長勝幸さんは、「疏水というテーマが難しく、何を撮影するか悩んだ。数点、応募したが、まさかこの作品が選ばれるとは思わなかった。毎年6月に催される霧島神宮

のお田植え祭には、7～8年通っている。田んぼの水面に映る早乙女、早男たちの田植えの様子がとても美しく、70～80m離れたところから望遠で捉えた。入賞の知らせを聞いて喜んでいる」と、話してくれた。

また、入選に選ばれた諏訪園保さんは「写真が好きで県内各地のお祭りを中心に撮影している。疏水と聞いて柴堰をイメージした。毎年3月、串良町土地改良区が掛け替えをしており、これまで3～4回、撮影に出かけた。掛け替える作業の段取りがわかってきたので、シャッターチャンスを狙った。入賞できて嬉しい」と話してくれた。

同コンテストの入賞作品は、全国水土里ネットのホームページで紹介している。

<http://www.inakajin.or.jp/>



長 勝幸「華やかなお田植え祭」  
霧島神宮御斎田(霧島市)



諏訪園 保「柴井堰の掛け替え」  
川原園井堰(鹿屋市)

## 第17回ため池のある風景写真コンテスト 本県から2名が特別賞を受賞

ため池の存在と大切さを知ってもらおうと、全国ため池等整備事業推進協議会が主催する第17回ため池のある風景写真コンテストが実施され(全国水土里ネット及び都道府県水土里ネットが協賛)、2月25日、写真家の英伸三審査員による審査会が開催された。

同コンテストには、全国の写真愛好家から、各地のため池を写した508点の作品が寄せられ、最優秀賞1点、優秀賞2点、全国水土里ネット会長賞1点、特別賞31点が選定された。

本県からは、鹿児島市の長勝幸さん(77)が薩摩川内市祁答院町の蘭牟田池で撮影した「会議中」と、田邊幹明さん(67)が日置市東市来町の尾木場4号溜池で撮影した「大地と水の恵み」が特別賞を受賞した。

英審査員は「写真を撮影するまでに時間をかけている。よくため池のことをご存じで、よく歩いていると感じさせる、ゆったりとした時間を背景に感じさせるような作品が今回は特に多かった。この写真展のすばらしさは、そういう時間の中で、ため池と向き合いながら作品が生み出されていくところ。毎回新しい風景、新しい題材が登場してくるというのも、撮影者の方々の努力と同時に、ため池が時代の動きに応じながら変化しているということ。その様子が、写真を通じてよくわかった」と講評した。

写真愛好家の長勝幸さんは、「鹿児島の農業や農村が好きで、写真を撮っている。撮影場所の蘭牟田池は、かつては水不足で困っていたこともあった。この日は、ため池の水が満々と満ちてきれいだった。そこに、白鳥たちが集まってきたのが珍しいと思い、シャッターをきった。タイトルも工夫した。全国規模の写真展での入賞を喜んでいる。鹿児島の農業のことを知ってもらえれば」と語った。

また、田邊幹明さんは「尾木場地区にはきれいな棚田があり、何度も通っている。ため池も

何カ所もあり、いつか作品にしたいとイメージしていた。黄金色の田んぼの畦を歩く農夫、その下に広がるため池の水面に青空と雲が映り込み、シャッターチャンスだと思った。写真を始めて3年目。同展への応募は初めてだが、全国規模の写真展に入賞できて嬉しい。これからも農村をテーマに撮影したい」と、喜びを語った。

主催者である全国ため池等整備事業推進協議会は、「全国各地にあるいろいろな表情のため池を広く紹介することにより、ため池に対する理解がますます深まっていくことを願っている」とコメントしている。

同コンテストの入賞作品は、全国水土里ネットのホームページで紹介している。

<http://www.inakajin.or.jp/>



長勝幸「会議中」  
蘭牟田池(薩摩川内市)



田邊幹明「大地と水の恵み」  
尾木場4号溜池(日置市)

## 北薩事務所

### 伊佐市菱刈の水神祭に参加



水神様へ祈りを捧げる

北薩事務所では、4月28日に伊佐市菱刈湯之尾地区で行われた水神祭に参加した。

この水神祭は、毎年4月から5月の吉日を選び、湯之尾井堰を管理する水土里ネットひしかり（永吉弘行理事長）が中心となって、五穀豊穣への祈願と湯之尾井堰や関連する土地改良施設での水難などの災いを鎮めるために行われている。水土里ネットの前身となる水利組合が設立された昭和26年よりもさらに昔から伝わる伝統行事だそうだ。

当日は、水土里ネットの永吉理事長をはじめ、役職員や伊佐市の隈元新市長、伊佐市職員、県始良・伊佐地域振興局及び本会北薩事務所から28名が参列した。

今年は熊本地震が発生し、その後も雨が続いたため、天候が気がかりだったが、前日まで降り続いた雨は止み、神事の際は晴れ間も見え、参列者の安堵が伝わってきた。

水神様が祭られている水神社は、1680年頃に建立されたもので、別名を井出水天祠と呼ぶそうだ。菱刈用水路の取水口である湯之尾滝を見下ろす山の中腹の杉林の一画に鎮座しており、とても厳かな雰囲気であった。

水神祭では、水神様に供物が奉納され、祝詞と玉串奉てんが執り行われた。祝詞には、水土里ネットが管理する菱刈地区全域の名前や、取

水口である川内川、その支線となる市山川、重留川、新川、楠本川、芋田川、川間川が丁寧に読み上げられ、安全が祈願された。また、各団体の代表者が玉串を捧げ、出席者はそれぞれの代表者に併せて、祈りを捧げた。

隈元市長からは、水への感謝と土地改良区へのねぎらい、農業用水を地域全体で守ることの大切さなどが述べられた。

その後、参列者は川内川にかかる星流橋へ移動し、水への感謝と安全、五穀豊穣を願って、米と塩、焼酎を川に捧げた。最後に、わらで編んだ投げ縄（通称：流し縄）が投げ込まれた。この流し縄の行方は、今年の豊作の吉凶を判断すると言われており、どちらに流れるのか、みんなでその行方を真剣に見守った。

水土里ネットによると、水神祭の時には、ふわりとした風とともに神様が降りていらっしやるのがわかるそうだ。今年も神様がいらっしやっただのを感じたそうで、五穀豊穣と水の安全を願った人々の祈りが、神様に届いたのだろう。

同日、水土里ネットの役職員や関係者が集い、意見交換を行う「なおりい」も開かれ、これからの農業や地域のことなど、活発に意見が交わされた。

水神祭に参加し、地域の方たちの農業への思い、それに欠かせない水や守ってくださる神様への感謝等を改めて教えられた。農業農村整備事業に携わる者として、こうした農家の思いにも応えられるよう努めていきたい。



星流橋から祈りを捧げる



## 各管内だより

### 大隅事務所

### 川原園井堰の柴掛けに参加



柴掛け前の川原園井堰全景

鹿屋市串良町内を流れる串良川には川原園井堰という、全国で唯一、柴で造られた堰、「柴堰」が存在する。

川原園井堰の延長は43mで、およそ380年前の江戸時代初期に、薩摩藩の新田開発によって現在の場所に築造された。基礎は当初、木杭で構成されていたが、およそ110年前に石積へ改築された。その石積基礎も台風によって流出する被害が多発したため、70年ほど前に、現在のコンクリート基礎となった。基礎の変化はあるものの、現在でもマテバシイ、竹、菰こもという自然素材で築堤され、柴堰という弥生時代以来の形態が維持されている。

この川原園井堰は、毎年3月、串良町土地改良区（出水園利明理事長）が中心となって、堰を構成するマテバシイ等を伐採した後、直径20cm程にそろえて、竹で結んだ「柴束」を作り、柴束を堰に掛ける柴掛け作業を行っている。

今年は天気の良い日が続いたため、作業が順調に進んだとのことで、3月16日に行われた柴掛け作業には、地元集落の方や土地改良区の理事等約20名と、本会大隅事務所の職員5名が参加した。午前中から作業が始まり、取水口付近の清掃をした後、水神を祭った。

その後、基礎となる横木にマテバシイを水平に据え、そこへ柴束を並べ、最後に菰と呼ば

れる稲のワラで織られた粗い目の布で敷き込んで、堰が完成する。地元の方々は長年携わってきているので、声をかけ合いながら慣れた様子で作業を進め、柴を掛け始めてから約1時間後には柴堰が完成した。

作業開始時は膝下程度だった水位が、作業終了後には腹部あたりまで上昇しており、柴堰の効果を実感した。

川原園井堰は、歴史的にも全国的にも珍しい堰であるが、近年は基礎部のコンクリートの老朽化、柴堰には欠かせないマテバシイの減少、作業者の高齢化が課題となっている。

しかし、柴掛けは景観としても貴重なもので、平成12年～15年に文化庁が実施した文化的景観に関する調査で「重要地域」に指定され、平成27年10月に文化遺産の保護に関わる国際組織「ICOMOS」が福岡で開催した学術シンポジウムでは、日本から唯一の発表テーマとなり、参加した研究者から高い評価を得た。現在は発表者を中心に、川原園井堰を題材とした映画作成が進行している。

今回、世界的にも注目を浴びる川原園井堰の柴掛け作業に参加することができ、大変貴重な体験になった。



柴掛けの作業状況



柴掛け後の記念撮影



## 大島事務所

### KAMあまみ21 野菜収穫&畑でレストラン 体験バスツアーを開催



ホウレンソウの種まきを体験

奄美群島の農業農村整備事業のキャンペーン活動等を通じ、地域主導・住民参加型による「あたらしい田園社会あまみの創造」をめざすKAMあまみ21（平井美保子会長）は、奄美管内の地域農家や市町村担当職員、マスコミ、本会等が会員となり、活動をしている。

同会では、地域住民に農業体験を通して農業農村の魅力を理解してもらおうと、1月10日、奄美市笠利町土浜地区で「野菜収穫&畑でレストラン体験バスツアー」を開催した。

同会がバスツアーを企画するのは初めて。当日は、奄美市内を中心に親子連れなど15組45名が参加した。

大島事務所では、このバスツアーの参加を呼びかけるため、マスコミへの協力依頼をはじめ、会場の設営、運営補助等を行った。

当日は、まず奄美市土地改良区職員による須野ダムの説明やスプリンクラーの散水を見学し、地域農業を支える畑かん施設などについて理解を深めてもらった。

その後、KAMあまみ21の会員で、奄美市笠利町で有機農法に取り組む農家、楠田哲さんの畑に伺い、農業体験を行った。

農業体験では、楠田さんの指導のもと、はじめに耕運機を使った土づくりを行った。そして、

サヤエンドウの苗やホウレンソウの種まきを体験した。さらに、ミズナやバジル、ホウレンソウ、サラダ菜等を収穫した。

収穫した野菜は、龍郷町に店を構えるレストランのシェフが、その場でサラダ、野菜スープ、パスタに調理してくれた。

取れたての新鮮な野菜をおいしそうにはおぼる子ども達や、声をあげて堪能する保護者の姿が見られた。そして、「家ではこんなに野菜を食べることはない。収穫体験の効果では」や、「家庭菜園の経験はあるが、畑での農業体験は初めて。地域の大切な産業である農業を身近に感じられ、良い経験になった」等の意見も寄せられた。

このバスツアーに参加して、参加者が心から体験を楽しんでいたのが伝わってきた。

参加者には、須野ダムのことは知っていても、スプリンクラーからの散水を見るのは初めてだという人も多く、この企画を通じ、農業農村の魅力を少しでも伝えられたのではないかと思っている。

また、収穫した野菜をその場で調理し、試食したことで、島の農業と食生活が密接に関係していることや、地域を支える一次産業の大切さも理解してもらえたのではないかと感じた。

大島事務所では、今後も農業農村の魅力と、それを支える農業農村整備事業について、関係機関と連携した広報活動を展開していきたい。



収穫した野菜を試食

## 新規採用職員5名が入会

本会では、4月1日、下記の5名を新たに採用し、平成28年度をスタートしました。

現在は、配属された部署で上司や先輩の指導を受けながら、一日も早く会員の皆さまのお役に立てるよう、仕事を覚えているところです。

皆さま方のご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。



つるだ あい  
鶴田 愛  
総務部 総務課  
総務企画係



かみむら もみじ  
上村 紅葉  
総務部 管理課  
会員支援係



もり しゅんすけ  
森 俊介  
事業部 換地課  
換地1係



ふじさき りょう  
藤崎 遼  
事業部 換地課  
換地2係



ふくはら そうま  
福原 颯真  
曾於支部  
畑地かんがい係

## 水土里ネット鹿児島 平成28年度版PRパンフレットを作成

本会の概要や業務活動を紹介する平成28年度版PRパンフレットを、この度、作成しました。

本会の概要誌「あすのゆめ明日・農・夢」パンフレットは、組織・概要をはじめ、平成28年度事業計画、事業活動、会員や地域を対象に行う支援事業、水土里情報システムの活用事例、再生可能エネルギーの導入促進支援、水土里サークル活動支援等を紹介しています。

また、「私たちにおまかせください 業務推進プロジェクト2016」は、本会が行う会員支援や地域支援をはじめ、水土里サークル活動、水土里情報システムやGIS技術を使った各種事業、土地改良施設の保全管理、畑地かんがい、湿害農地の解消、事業計画書作成、農地の集団化や担い手農家への集積・集約化、換地に関する手続き、確定測量、環境との調和に配慮した事業の推進、農業集落排水事業、再生可能エネルギーの導入促進、農道台帳作成・管理、発注者業務支援等について、具体的な内容で業務を紹介しています。

会員の皆さまには、最寄りの事務所または支部を通じてお配りしますので、ご覧いただき、本会の事業活動等について、お気軽にお問い合わせください。



(左)2016水土里ネット鹿児島概要「明日・農・夢」  
(右)「私たちにおまかせください」水土里ネット鹿児島 業務推進プロジェクト2016

## 第39回全国土地改良大会（石川大会）の開催について

第39回全国土地改良大会が、全国水土里ネットと水土里ネット石川主催のもと、「<sup>みどり</sup>水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」をテーマに、10月25日、石川県で開催されます。

大会概要は、以下のとおりです。

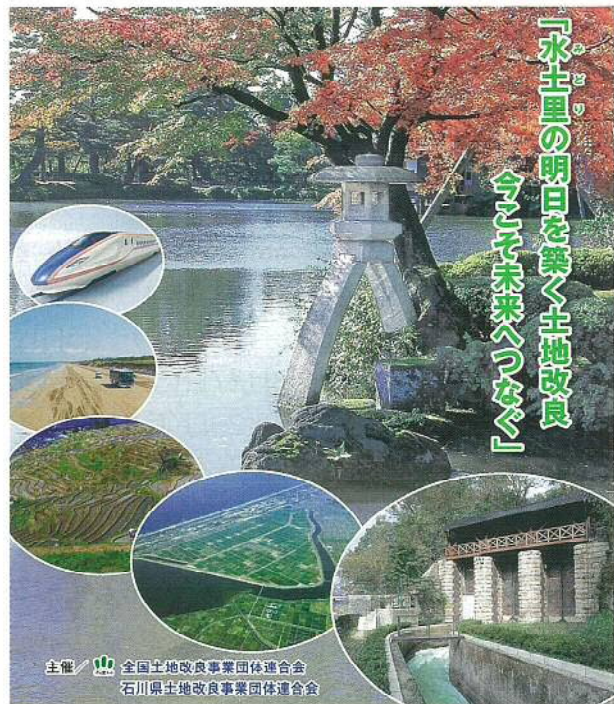
詳細につきましては、本会の各事務所・支部を通じてご案内しますので、ぜひご参加ください。

### ○開催趣旨

本大会は、農業農村整備に関わる全国の関係者が一堂に会し、農業農村の重要性とそれを支える農業農村整備事業の役割を広く国民にアピールし、新たな農業の展開方向に即し、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力を挙げて、我が国の農業・農村をさらに発展させるとともに、広く次世代に引き継いでいくことを目的としています。

## 第39回 全国土地改良大会 石川大会

平成28年10月25日(火)  
いしかわ総合スポーツセンター



### ○大会テーマ：「<sup>みどり</sup>水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」

○大会式典：土地改良事業功績者表彰、基調講演、基調報告、優良活動事例、大会宣言、次期開催県引き継ぎ 等

○記念行事：大会オープニングセレモニー、石川県紹介ビデオ放映、交歓会

○併催行事：農業・農村のパネル展、石川県の特産品の展示・販売コーナー

石川県の市町コーナー、次期開催地「静岡県」コーナー

○開催日：平成28年10月25日(火)～26日(水)

大会式典 10月25日 13:00～ いしかわ総合スポーツセンター

交歓会 10月25日 17:00～ ホテル日航金沢

事業視察 10月26日(県内の先進的な国営、県営事業等、日帰りコースを設定予定)

○主催：全国土地改良事業団体連合会、石川県土地改良事業団体連合会

○後援：農林水産省、石川県、石川県議会、金沢市、石川県市長会

石川県町村会、石川県農業農村整備事業推進協議会

○参加者：全国の農業農村整備事業関係者

○参加人数：3,000名程度

○お問い合わせ：水土里ネット鹿兒島 総務部 総務課(TEL:099-223-6111)まで

## 第25回かごしまフォト農美展 作品募集

本会と鹿児島県農業農村整備情報センターでは、鹿児島県内の魅力ある農業と農村をテーマに、第25回かごしまフォト農美展の作品を募集します。皆さまのご応募をお待ちしております。

1. 区 分：自由部門、課題部門「技を伝える後継者」
2. 応募規程：所定の様式に必要事項を記入し、作品の裏面に貼り付けること  
①単 写 真：モノクロ・カラーともに四つ切り以上半切まで  
②組み写真：1点につき4枚以内。レイアウトやサイズ、モノクロ・カラーは自由。  
市販の白いスチレンボード（A1サイズ：594mm×841mm、厚さ5mm～7mm）に、記入済みの作品貼り付け用紙と組み写真キャプションを貼る。  
③応募点数：自由部門、課題部門ともに一人10点以内  
④出 品 料：無料
3. 受 付：事務局へ郵送または持参にて受付  
①地方受付：平成28年8月22日(月)～26日(金) 土改連各事務所・支部  
②中央受付：平成28年8月27日(土) 県土地改良会館5階大ホール  
③郵 送：平成28年8月29日(月)必着
4. 審 査 会：平成28年9月8日(木)予定
5. 展 覧 会：平成28年12月20日(火)～25日(日) 鹿児島市立美術館 一般展示室
6. 表 彰 式：平成28年12月24日(土)(予定)

○お問い合わせ：鹿児島県農業農村整備情報センター

水土里ネット鹿児島 総務部 管理課内 (TEL:099-223-6195)まで

---

## 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2016 作品募集

本会では、全国水土里ネットと共催で、小学生以下を対象に、「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2016の作品を募集します。

テーマは、「新発見/ぼくのわたしのふるさと」。田んぼや棚田、畑、ため池、農業用水路などの風景や大切な水路を守っている人たち、農業に関する古くから伝わる祭りや風習、郷土料理、田んぼの生きもの、農家の生活、さまざまな農作業風景など。詳しくは、全国水土里ネットホームページ「新・田舎人フォーラム」<http://www.inakajin.or.jp/>をご確認ください。

1. 応募方法：水土里ネット鹿児島または子ども絵画展事務局へ郵送
2. 応募〆切：平成28年9月12日(月)
3. 賞 賞：入賞20点、入選約150点程度を予定、応募者全員に参加賞
4. 発 表：10月中旬頃に本人または代表者にお知らせ
5. 授 賞 式：平成28年11月26日(土) 東京都美術館 講堂  
入賞者を親子各1名、授賞式に招待
6. 作品展示：平成28年11月下旬～平成29年3月  
東京都美術館、東京都庁南展望室、エコプロダクツ2016等

○お問い合わせ：水土里ネット鹿児島 総務部 管理課(TEL:099-223-6116)まで

## 「三段組版 土地改良法令集 平成28年版」の発行について

土地改良事業に携わる関係者必携の書として、団体や事業の適切で適正かつ円滑な運営に広く活用してもらおうと、全国水土里ネットから平成28年3月に発行されました。

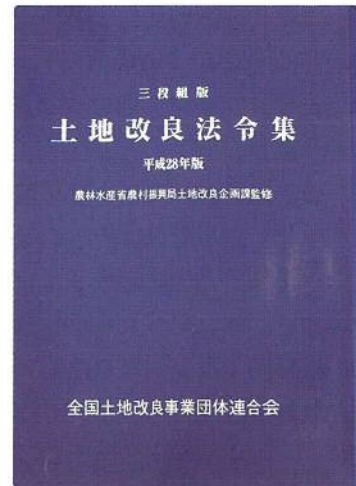
本書は、土地改良法、土地改良法施行令、土地改良法施行規則が三段組で体系的に整理されており、最新版では、農地中間管理機構法の制定や行政不服審査法の一部改正に伴う土地改良法の改正部分が整理されています。

なお、制作部数には限りがございますので、ご購入を希望される方は、下記へ早めにお申し込みください。

1. 装 幀 等：A5版730ページ
2. 頒布価格：3,500円(税込)
3. 送 料：1冊あたり450円～ただし30冊以上は無料
4. 申 込 先：全国水土里ネット 事業部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館4階  
TEL:03-3234-5592/FAX:03-3234-5670

○お問い合わせ：水土里ネット鹿児島 総務部 管理課(TEL:099-223-6116)まで



## 鹿児島県水土里サークル活動シンポジウムの開催について

鹿児島県水土里サークル活動支援協議会では、水土里サークル活動に取り組む活動組織や自治会、農業団体、協議会会員、共生・協働の農村づくり運動推進協議会会員、水土里ネット、市町村、県、土改連等を対象に、基調講演や活動組織の事例発表等を通じて、活動のさらなる展開を目指した、水土里サークル活動シンポジウムを開催します。

詳細につきましては、関係者に追ってご案内しますので、ぜひご参加ください。

開 催 日：平成28年9月1日(木) 13:00～

開催場所：宝山ホール(鹿児島市山下町5-3 TEL:099-223-4221)

○お問い合わせ：水土里ネット鹿児島 事業部 農村整備課(TEL:099-223-6135)まで

## 九州「農地・水・環境保全」フォーラムin福岡の開催について

ふるさと環境フォーラム・九州連絡会では、多面的機能支払交付金(本県の愛称:水土里サークル活動)に取り組む活動組織の事例発表等を通じて、活動組織の連携強化や士気の高揚、情報発信等を目的に、九州「農地・水・環境保全」フォーラムを開催します。

詳細につきましては、関係者に追ってご案内しますので、ぜひご参加ください。

開 催 日：平成28年11月15日(火) 13:00～

開催場所：福岡国際会議場(福岡市博多区石城町2-1 TEL:092-262-4111)

○お問い合わせ：水土里ネット鹿児島 事業部 農村整備課(TEL:099-223-6135)まで

## 平成28年度 農業農村整備優良地区コンクール 参加地区を募集

農業生産基盤整備や農村整備の実施を契機に、農業振興や地域活性化等に成果を上げている優良地区(団体)を表彰する農業農村整備優良地区コンクールが、今年も全国水土里ネット主催のもと、開催されます。対象は、事業完了後10年以内の地区で、応募にあたっては、県土連会長による推薦が必要となります。

優良地区は、農業生産基盤整備部門と農村振興整備部門の2部門に分けて選定されます。

昨年、本県では長島町の蔵之元地区が農業生産基盤整備部門で全国水土里ネット会長賞を、また、いちき串木野市の萩元前団地保全会が農村振興整備部門で農村振興局長賞を受賞しました。参加のご希望がございましたら、下記へお問い合わせください。

**応募部門：**農業生産基盤整備部門、農村振興整備部門(2部門)

**提出書類：**推薦書、参加申込書、地区の概要、地区調書、その他説明資料

**賞：**農林水産大臣賞、農村振興局長賞、全国水土里ネット会長賞

**選定方法：**①参加申込み、②県土連会長による推薦、③事前選考会、④選定審査会

**募集期間：**平成28年6月1日～7月25日(本会の推薦申込期日)

○お問い合わせ：水土里ネット鹿児島 総務部 管理課(TEL:099-223-6116)まで

## 鹿児島県農業水利施設小水力等発電推進協議会が行う会議・研修会について

鹿児島県農業水利施設小水力等発電推進協議会では、以下の日程で研修会を開催します。

地方研修会及び先進地視察は、同協議会の会員を対象に、また中央研修会は、追って対象者へご案内します。

会員の皆さまは、ぜひご参加ください。

### ○小水力等発電導入技術力向上中央研修会 専門技術者育成中央研修

| 開催日       | 名称           | 対象                      | 開催場所 | 研修内容                |
|-----------|--------------|-------------------------|------|---------------------|
| 7月11日～15日 | 第2回専門技術者育成研修 | 発電施設の管理運営の実務担当者(土地改良区等) | 東京都  | 電気主任技術者関連(機械中心)     |
| 1月23日～27日 | 第3回専門技術者育成研修 | 発電施設の管理運営の実務担当者(土地改良区等) | 東京都  | 電気主任技術者関連(電力もしくは理論) |
| 2月20日～24日 | 第4回専門技術者育成研修 | 発電施設の管理運営の実務担当者(土地改良区等) | 東京都  | 電気主任技術者関連(理論もしくは電力) |

### ○小水力等発電導入技術力向上中央研修会 指導者育成中央研修

| 開催日        | 名称                | 対象        | 開催場所 | 研修内容                                     |
|------------|-------------------|-----------|------|--|
| 9月20日～21日  | 第1回指導者育成研修【会計編】   | 土地改良区、土改連 | 東京都  | 発電会計及び複式簿記について、演習問題も含めて研修                |
| 10月12日～14日 | 第2回指導者育成研修【初級技術編】 | 県、土改連     | 東京都  | 小水力等発電の整備・維持管理にかかる一連の流れ、系統連系など。うち1日は現地研修 |
| 11月16日～17日 | 第3回指導者育成研修【応用技術編】 | 県、土改連     | 東京都  | 小水力発電の経済性や発電量など(演習問題が中心)                 |

### ○小水力等発電導入技術力向上地方研修事業

| 開催日        | 名称        | 対象                   | 開催場所   | 研修内容   |
|------------|-----------|----------------------|--------|--|
| 9月1日～2日    | 先進地視察現地研修 | 協議会の構成員(県、土地改良区、土改連) | 佐賀県    | 佐賀県鹿島市:中木庭ダム発電所<br>東松浦郡玄海町:唐津発電所             |
| 11月29日     | 地方研修会     | 協議会の構成員(県、土地改良区、土改連) | 鹿児島市   | 発電施設検討の基本的事項、協議手続き等、計画・施設整備・運用管理等・事例紹介・事業検討等 |
| 7月～3月 適時実施 | 専門技術者派遣   | 協議会の構成員(市町村、土地改良区)   | 各会員市町村 | 小水力導入にあたって、課題解決に向けた指導を行う専門技術者を派遣             |

※平成28年5月末現在の予定のため、変更する可能性があります。ご了承ください。

## 会議・研修会情報

主に会員を対象とする会議・研修会等の平成28年6月1日現在の予定です。  
変更になる可能性もありますので、詳細は事前に担当課までお問い合わせください。

| 開催日(予定)    | 名称                               | 対象                       | 場所(予定)          | 問い合わせ先    |
|------------|----------------------------------|--------------------------|-----------------|-----------|
| 6月17日      | 鹿児島県農業水利施設小水力等発電推進協議会<br>第3回通常総会 | 協議会の構成員<br>(県、土地改良区、土改連) | 鹿児島市            | 土地改良研究所   |
| 6月28日      | 平成28年度 第1回監事会・監査                 | 監事                       | 鹿児島市<br>(土改連本部) | 総務部 総務課   |
| 6月29日      | 棚田等保全協議会かごしま 理事会・通常総会            | 役員、協議会会員                 | 鹿児島市<br>(土改連本部) | 事業部 農村整備課 |
| 7月6日       | 土地改良施設維持管理適正化事業説明会               | 市町村、土地改良区                | 鹿児島市<br>(土改連本部) | 事業部 農村整備課 |
| 7月28日～29日  | 土地改良団体職員研修会                      | 市町村、土地改良区、土改連            | 東京都             | 総務部 総務課   |
| 8月上旬       | 水土里ネット鹿児島 第1回理事会                 | 役員等                      | 鹿児島市<br>(土改連本部) | 総務部 総務課   |
| 8月(調整中)    | ふるさと水と土保全推進(棚田)事業<br>現地研修会       | 棚田保全活動組織、市町村<br>等        | 熊本県天草市<br>(予定)  | 事業部 農村整備課 |
| 9月1日       | 鹿児島県水土里サークル活動 シンポジウム             | 水土里サークル活動組織、<br>県、市町村等   | 鹿児島市<br>(宝山ホール) | 事業部 農村整備課 |
| 9月(調整中)    | ふるさと水と土保全対策事業<br>リーダー育成研修会       | 地域活動組織、市町村、<br>土地改良区等    | 鹿児島市<br>(土改連本部) | 事業部 農村整備課 |
| 9月下旬       | 標準積算システム運用説明会                    | 市町村、土地改良区                | 鹿児島市<br>(土改連本部) | 水土里情報センター |
| 10月25日～26日 | 第39回全国土地改良大会(石川大会)               | 県、市町村、土地改良区、<br>土改連      | 石川県             | 総務部 総務課   |

### 編集後記

▼このたびの熊本地震で亡くなられた皆さま、被災された皆さま方に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、全国水土里ネットの呼びかけのもと、義援金のご協力をお願いしたところ、多くの皆さま方にご支援をいただきました。温かいお心遣いに感謝申し上げます。▼「鹿児島県内の農業農村整備事業における環境配慮事例」が、このほど完成いたしました。平成13年の土地改良法改正以来、環境との調和に配慮した整備に向け、調査、計画、設計に取り組んできた成果のひとつとも言えます。トピックスでも一部をご紹介しますが、業務の参考にしていただければ幸いです。▼第58回通常総会の表彰式及び全国水土里ネット表彰の伝達式で、多くの皆さま方が荣誉ある表彰を受けられました。これまでの農業農村整備に対するご尽力とご功績に敬意を表しますとともに、心からお祝い申し上げます。▼本年度は役員改選が行われ、職員にも新規採用者5名が加わりました。新たな役員体制で平成28年度も事業活動等に取り組んでまいります。引き続きよろしく願いいたします。▼私事ですが、4月の人事異動により、初めて広報誌に携わることになりました。まだまだ不慣れではございますが、皆さまのところへ取材に伺い、農業農村に関する情報を紹介してまいりたいと思います。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。(K)



## 水土里ネット鹿児島

鹿児島県土地改良事業団体連合会  
〒892-8543 鹿児島市名山町10-22  
TEL.099-223-6111(代) FAX.099-223-6130